

令和 3 年度

人権に関する県民意識調査報告書
(概要版)

令和 4 年(2022 年)3 月
滋 賀 県

目次

I. 調査概要	1
II. 調査結果	2
1. 人権についての考え方	2
(1) 「人権が尊重される」ということについて	2
(2) 滋賀県における人権尊重の状況	3
(3) 人権に関わる法律や条例について	3
2. 人権侵害を受けた経験および対応	4
(1) 人権侵害を受けた経験	4
(2) 人権侵害を受けた場面	4
(3) 人権侵害を受けた内容	5
(4) 人権侵害を受けたときの対応	6
3. 人権侵害を見聞きした経験および対応	7
(1) 人権侵害を見聞きした経験	7
(2) 人権侵害を見聞きしたときの対応	7
4. 人権の個別分野ごとの課題	8
(1) 女性の人権について	8
(2) 子どもの人権について	9
(3) 高齢者の人権について	10
(4) 障害者の人権について	11
(5) 外国人の人権について	12
(6) ヘイトスピーチについて	13
(7) エイズやハンセン病などの感染症患者とその家族等の人権について	13
(8) 新型コロナウイルス感染症に関する人権問題について	14
(9) 医療の現場における患者の人権について	15
(10) 犯罪被害者等の人権について	16
(11) L G B T 等の人権について	17
(12) インターネット上の人権侵害について	18
5. 同和問題(部落差別)について	19
(1) 同和問題を知ったきっかけ	19
(2) インターネット上で部落差別に関する人権侵害事例を見た経験	20
(3) インターネット上で見た部落差別に関する人権侵害事例の内容	20
(4) 部落差別の現状	21
(5) 部落差別が残っている原因	21
(6) 被差別部落の出身者への認識	22
(7) 同和問題の解決方法についての考え方	23
(8) 同和問題解決に向けての思い	24
6. 人権の尊重や侵害についての考え方	25
(1) 古くからの言い伝えや考え方などについて	25
(2) 住宅を選ぶ際に忌避する条件	26
7. 人権啓発について	27
(1) 啓発活動への接触状況	27
(2) 講演会・研修会等への参加状況	28
8. 人権が尊重される社会の実現に向けての考え方	28
(1) 人権が尊重される社会の実現に向けての考え方	28
(2) 人権が尊重される社会の実現に向けての考え方の理由	29

I. 調査概要

調査の目的：県民の人権に関する考え方を調査し、人権教育・啓発をはじめとする今後の人権施策を推進するうえでの基礎資料とする。

調査期間：令和3年9月22日（水）～10月31日（日）

（当初は調査期間を令和3年10月12日（火）までとしていたが、調査開始後に10月31日（日）までに変更）

調査対象：県内に在住する18歳以上の者3,000人（外国人住民を含む。）

調査方法：郵送法、オンライン調査法（回答者がどちらかを選択）

※郵送法は、自記式アンケート調査（無記名方式）、調査対象者全員にハガキによる再依頼2回。

なお、外国人対象者に対しては、やさしい日本語に配慮して作成した調査票と5か国語の翻訳調査票（ポルトガル語・タガログ語・中国語・ベトナム語・英語）を送付した。

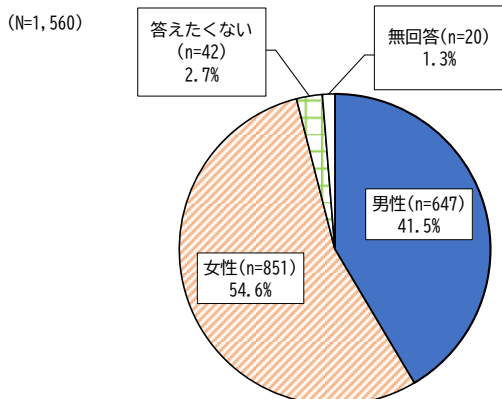
※オンライン調査法は、調査票とともに配布したID・パスワードを用い、しがネット受付サービスにより回答。（個人は特定されない。）

回収結果：有効回収数：1,560件 有効回収率：52.9%

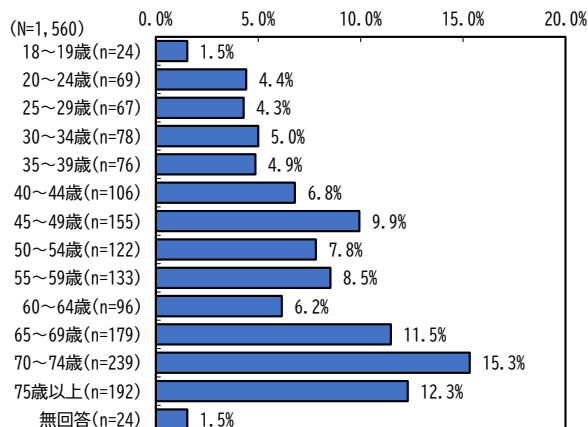
（割当標本数(3,000人)に対する回収率：52.0%

回答者の属性

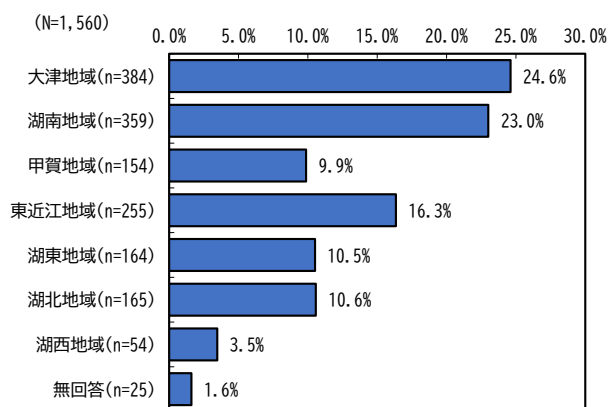
(1) 性別



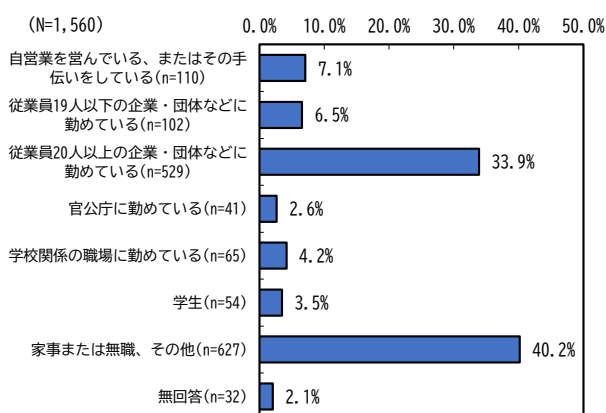
(2) 年齢別



(3) 居住地別



(4) 職業別



II. 調査結果

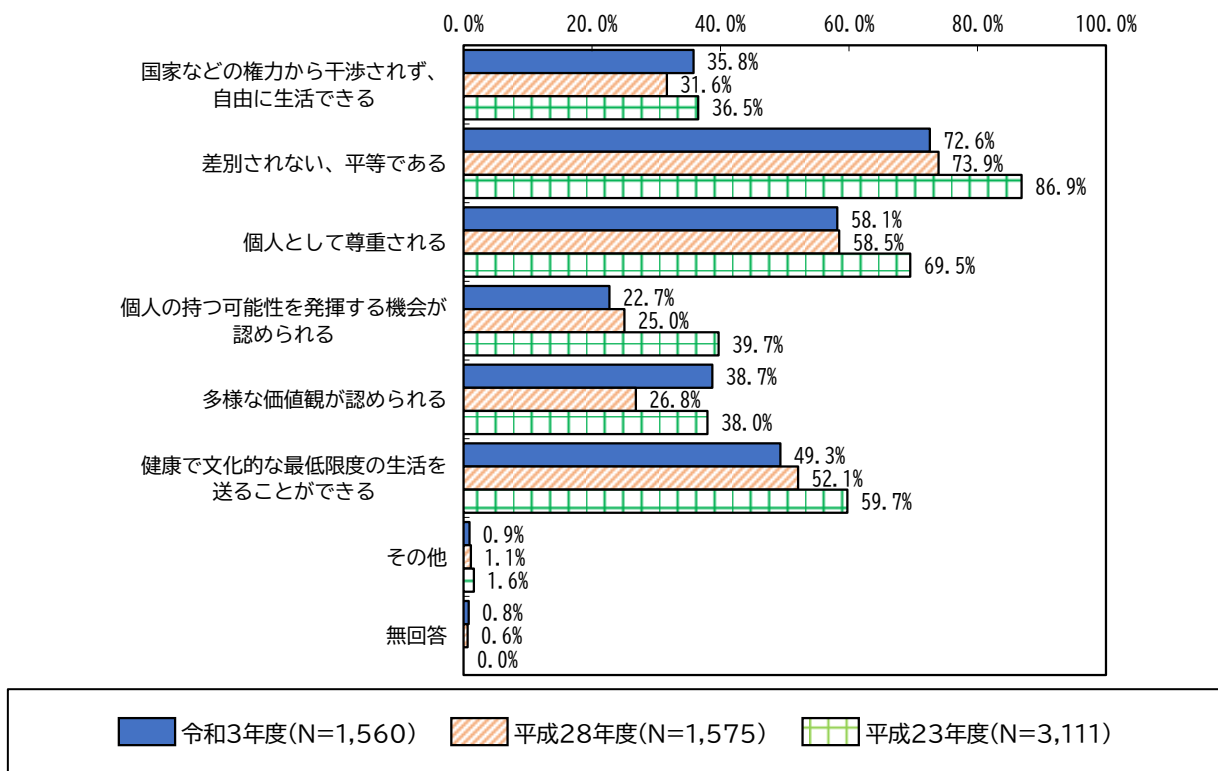
1. 人権についての考え方

(1) 「人権が尊重される」ということについて

【問1】「人権が尊重される」ということはどういうことだと思うか（3つまで回答）をたずねたところ、「差別されない、平等である」と答えた人の割合が72.6%で最も高くなっている。次いで「個人として尊重される」（58.1%）、「健康で文化的な最低限度の生活を送ることができる」（49.3%）の順となっている。

質問形式（今回・前回：3つまで選択、前々回：いくつでも選択可）を変更しているため単純比較はできないが、過去の調査と比較しても同様の傾向を示している。

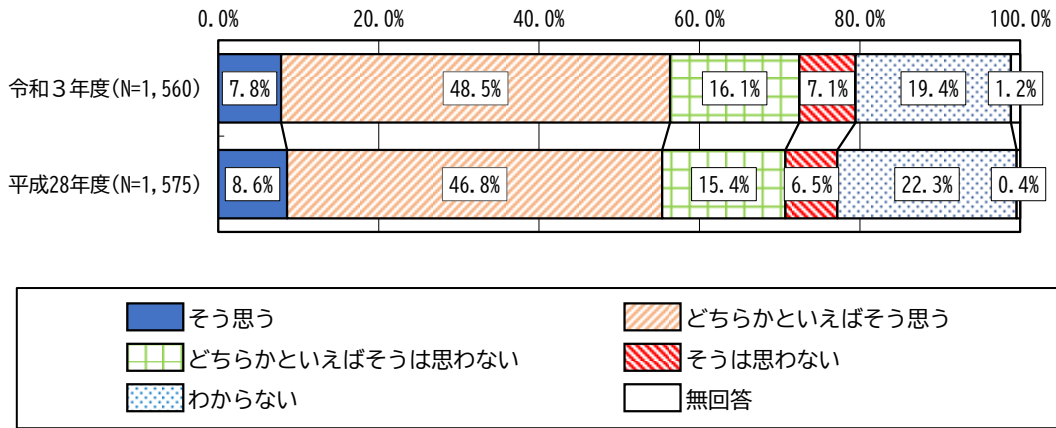
図「人権が尊重される」ということについて



(2) 滋賀県における人権尊重の状況

【問2】今の滋賀県は「人権が尊重される社会」になっていると思うかをたずねたところ、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”と答えた人の割合は 56.3%となっている。逆に「そうは思わない」「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた“そう思わない”は 23.2%となっている。前回の調査結果と比較すると、大きな変化は見られない。

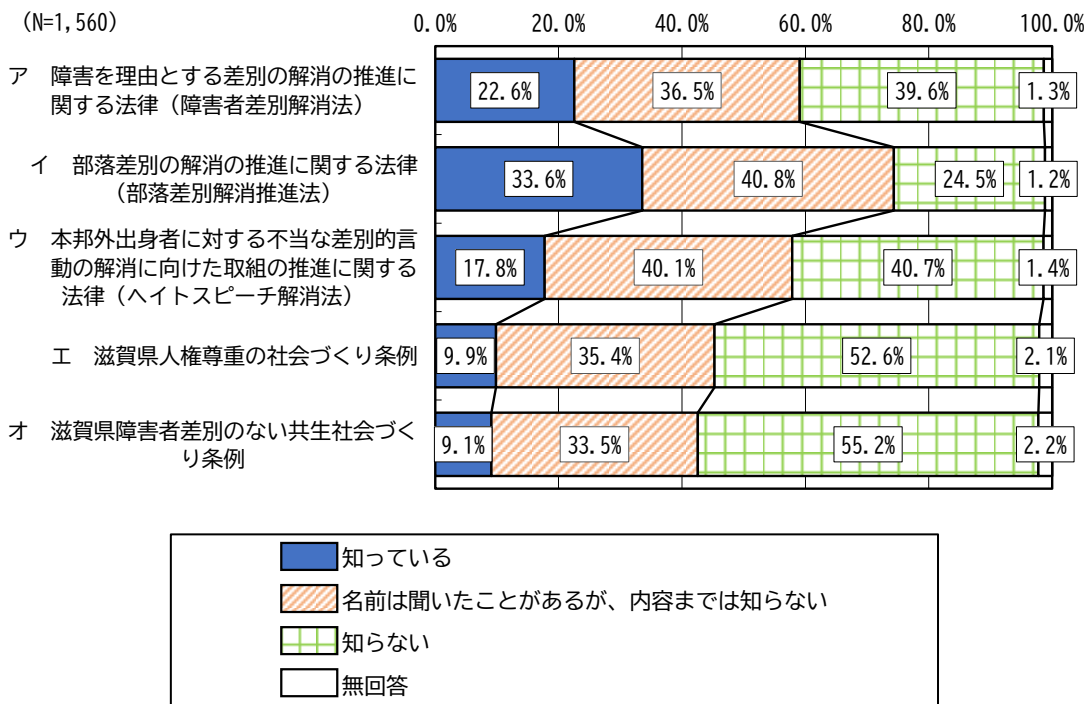
図 令和3年度・平成28年度 滋賀県における人権尊重の状況



(3) 人権に関わる法律や条例について

【問3】人権に関わる法律や条例の認知状況についてたずねたところ、「知っている」と答えた人の割合は「部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）」（33.6%）、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」（22.6%）、「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律（ヘイトスピーチ解消法）」（17.8%）、「滋賀県人権尊重の社会づくり条例」（9.9%）、「滋賀県障害者差別のない共生社会づくり条例」（9.1%）の順となっている。

図 人権に関わる法律や条例の認知度

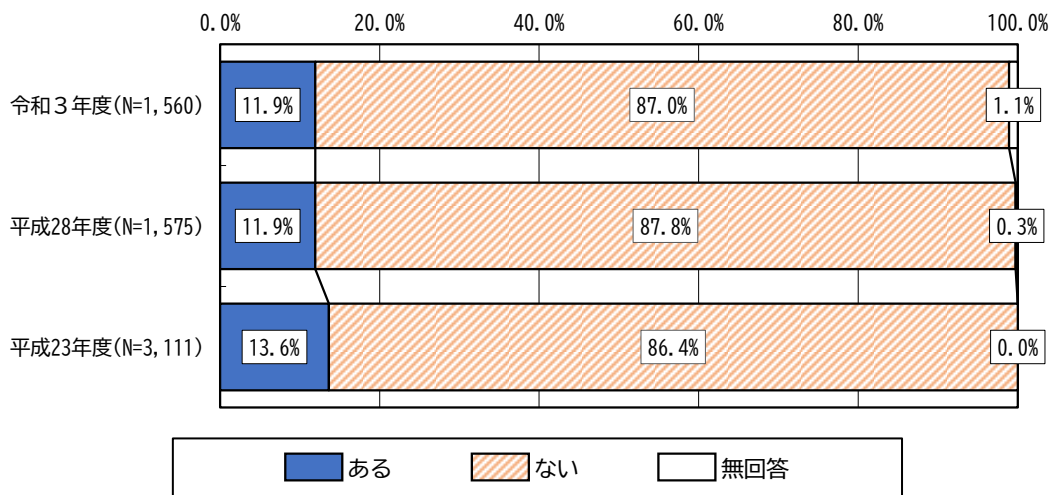


2. 人権侵害を受けた経験および対応

(1) 人権侵害を受けた経験

【問 4(1)】ここ5年以内で差別や人権侵害を受けた経験についてたずねたところ、「ある」と答えた人が 11.9%、「ない」と答えた人が 87.0%となっている。前回、前々回の調査結果から大きな変化は見られない。

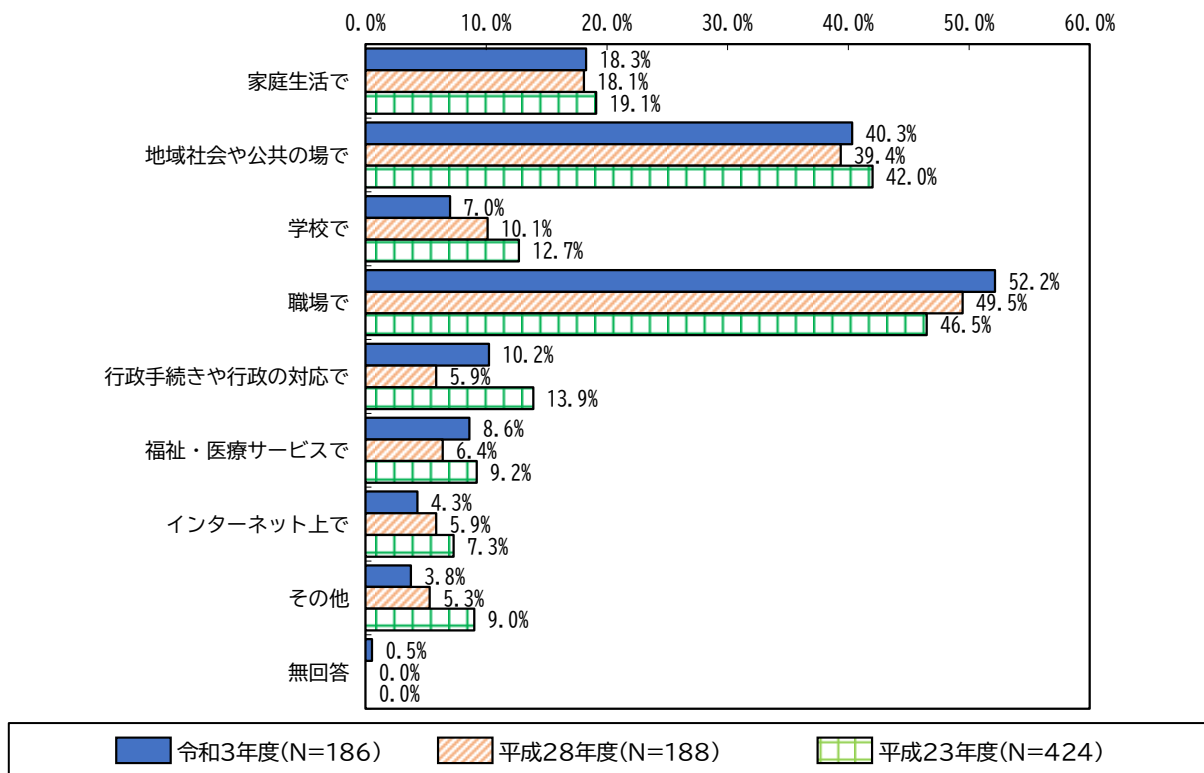
図 令和3年度・平成28年度・平成23年度 人権侵害を受けた経験



(2) 人権侵害を受けた場面

【問 4(2)】人権侵害を受けた経験が「ある」と答えた人に、人権侵害を受けた場面（複数回答）についてたずねたところ、「職場で」が 52.2%で最も高く、次いで「地域社会や公共の場で」（40.3%）、「家庭生活で」（18.3%）の順となっている。前回、前々回の調査結果と比べると、上位3項目の順位は同じ結果となっている。

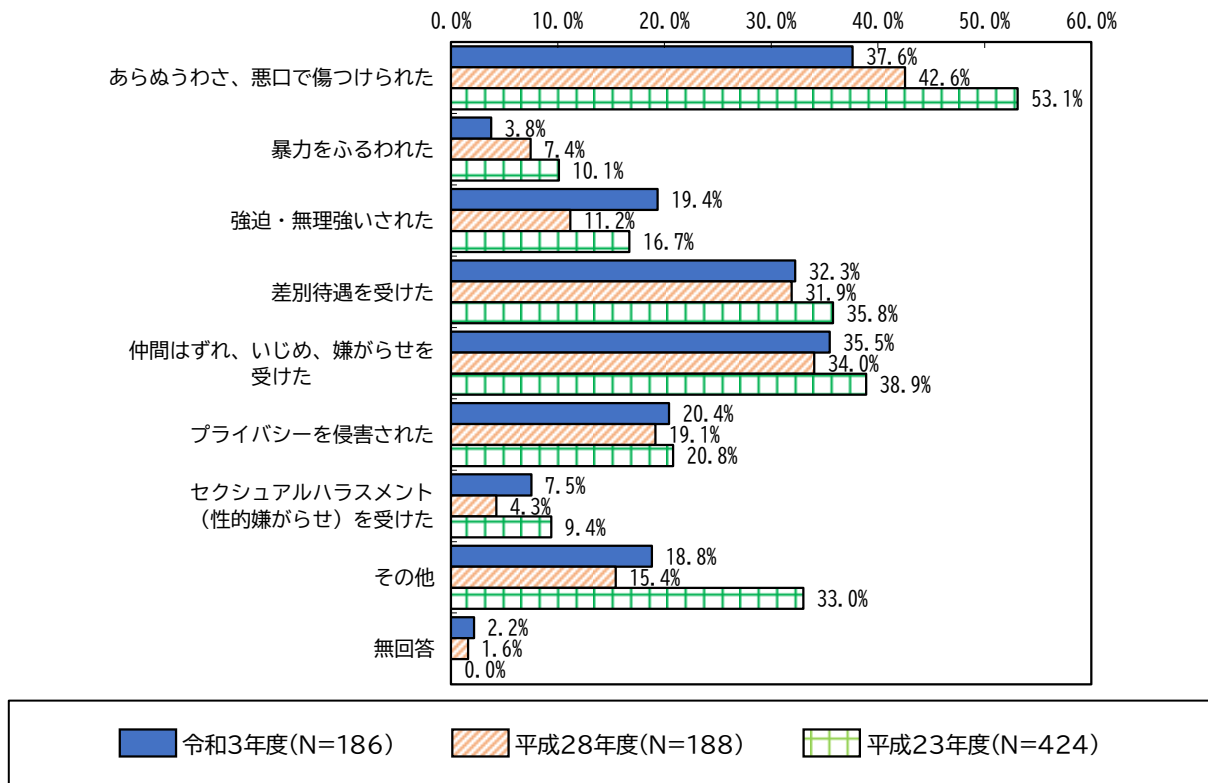
図 人権侵害を受けた場面



(3) 人権侵害を受けた内容

【問 4(3)】人権侵害を受けた経験が「ある」と答えた人に、人権侵害を受けた内容（複数回答）についてたずねたところ、「あらぬうわさ、悪口で傷つけられた」と答えた人の割合が 37.6%で最も高く、次いで「仲間はずれ、いじめ、嫌がらせを受けた」（35.5%）、「差別待遇を受けた」（32.3%）の順となっている。前回、前々回の調査結果と比べると、上位 3 項目の順位は同じ結果となっている。

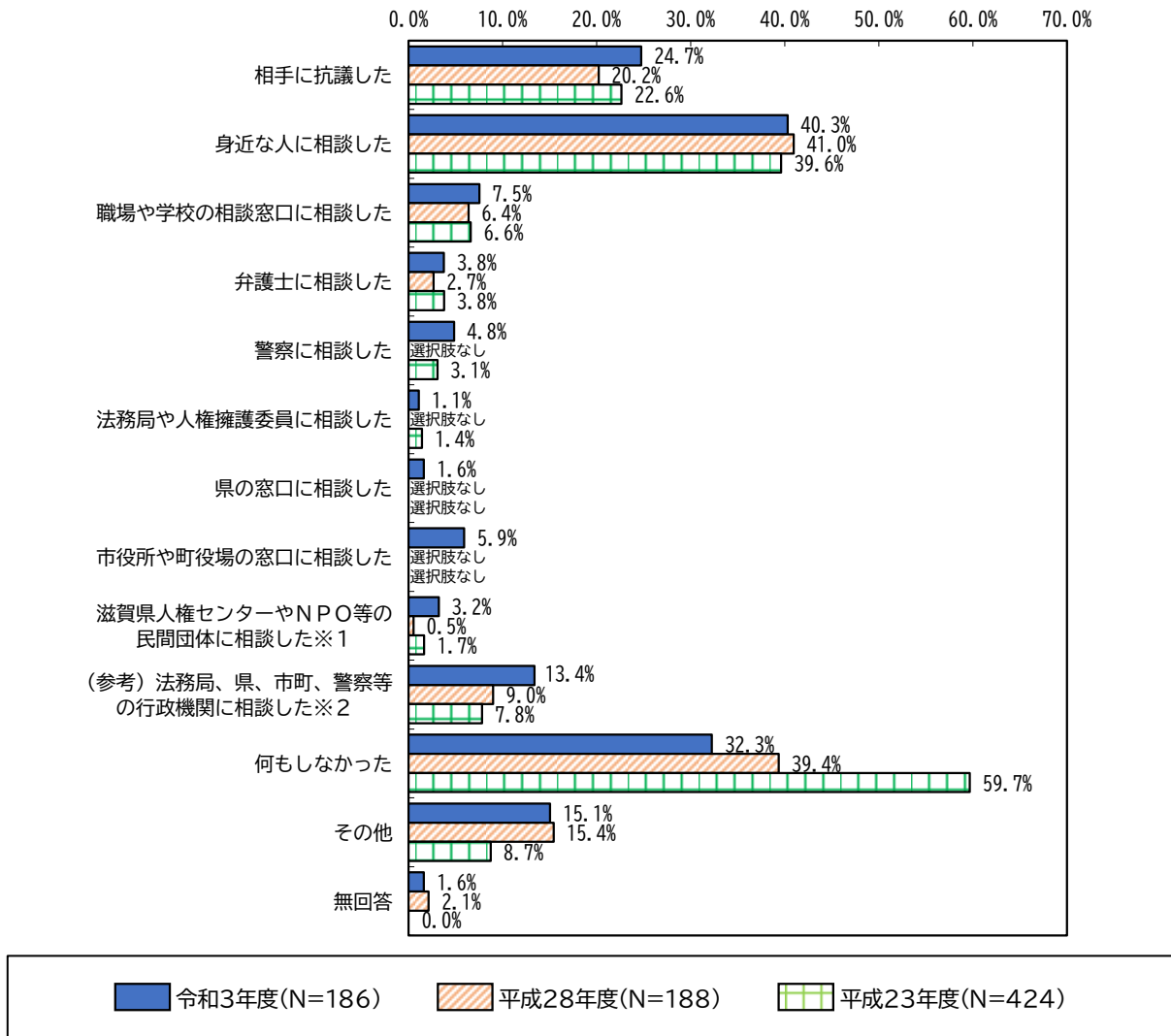
図 人権侵害を受けた内容



(4) 人権侵害を受けたときの対応

【問 4(4)】人権侵害を受けた経験が「ある」と答えた人に、そのときにどのような対応をしたか（複数回答）についてたずねたところ、「身近な人に相談した」と答えた人の割合が 40.3%で最も高く、次いで「何もしなかった」（32.3%）、「相手に抗議した」（24.7%）の順となっている。前回、前々回の調査結果と続いて「何もしなかった」と答えた人の割合が減少しており、「法務局、県、市町、警察等の行政機関に相談した」と答えた人の割合が増加している。

図 人権侵害を受けたときの対応



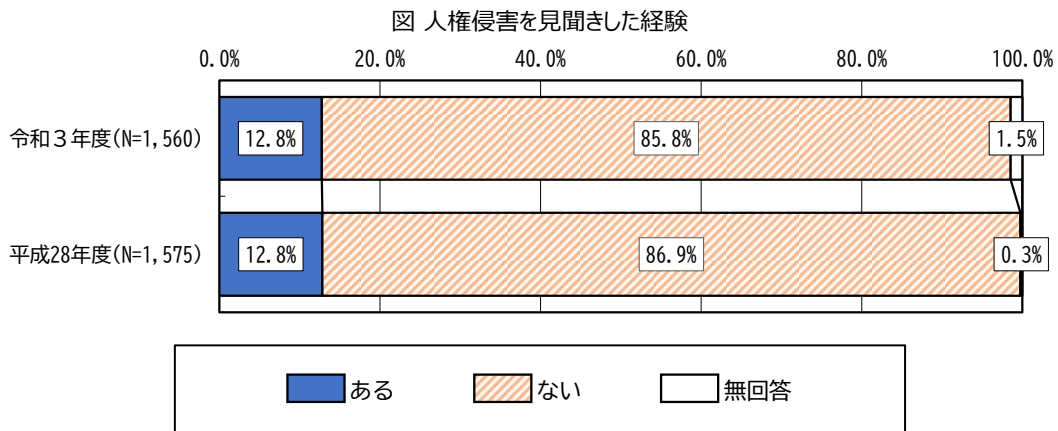
※1 平成 23 年度、28 年度の「NPO 等の民間団体に相談した」は、令和 3 年度の「滋賀県人権センターや NPO 等の民間団体に相談した」として整理算出している。

※2 平成 23 年度の「警察に相談した」、「法務局、人権擁護委員に相談した」、「県の機関、市役所、町役場に相談した」および令和 3 年度の「警察に相談した」、「法務局や人権擁護委員に相談した」、「県の窓口相談した」、「市役所や町役場の窓口相談した」は、平成 28 年度の「(参考) 法務局、県、市町、警察等の行政機関に相談した」として整理算出している。

3. 人権侵害を見聞きした経験および対応

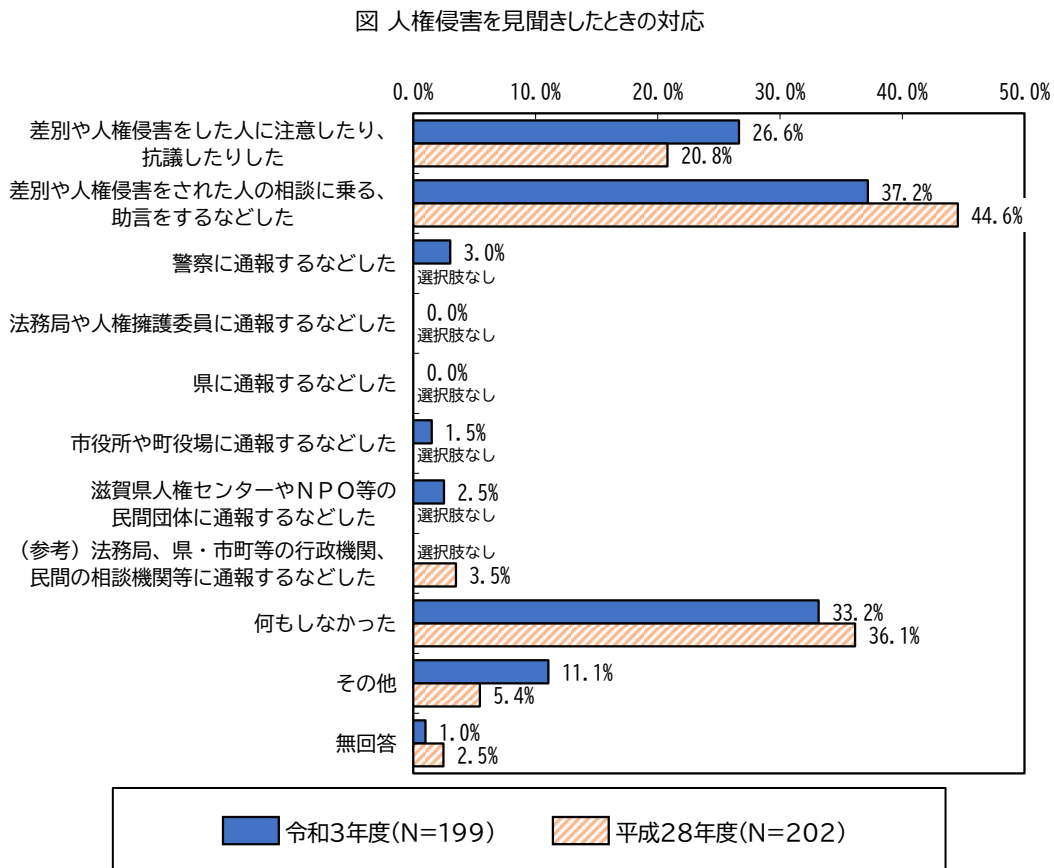
(1) 人権侵害を見聞きした経験

【問5(1)】ここ5年以内で人権侵害を見聞きした経験についてたずねたところ、「ある」と答えた人が12.8%、「ない」と答えた人が85.8%となっている。前回の調査結果と比較すると、大きな変化は見られない。



(2) 人権侵害を見聞きしたときの対応

【問5(2)】人権侵害を見聞きした経験が「ある」と答えた人に、そのときにどのような対応をしたか（複数回答）についてたずねたところ、「差別や人権侵害をされた人の相談に乗る、助言をするなどした」と答えた人の割合が37.2%で最も高く、次いで「何もしなかった」（33.2%）、「差別や人権侵害をした人に注意したり、抗議したりした」（26.6%）の順となっている。前回の調査結果と比べると、上位3項目の順位は同じ結果となっている。

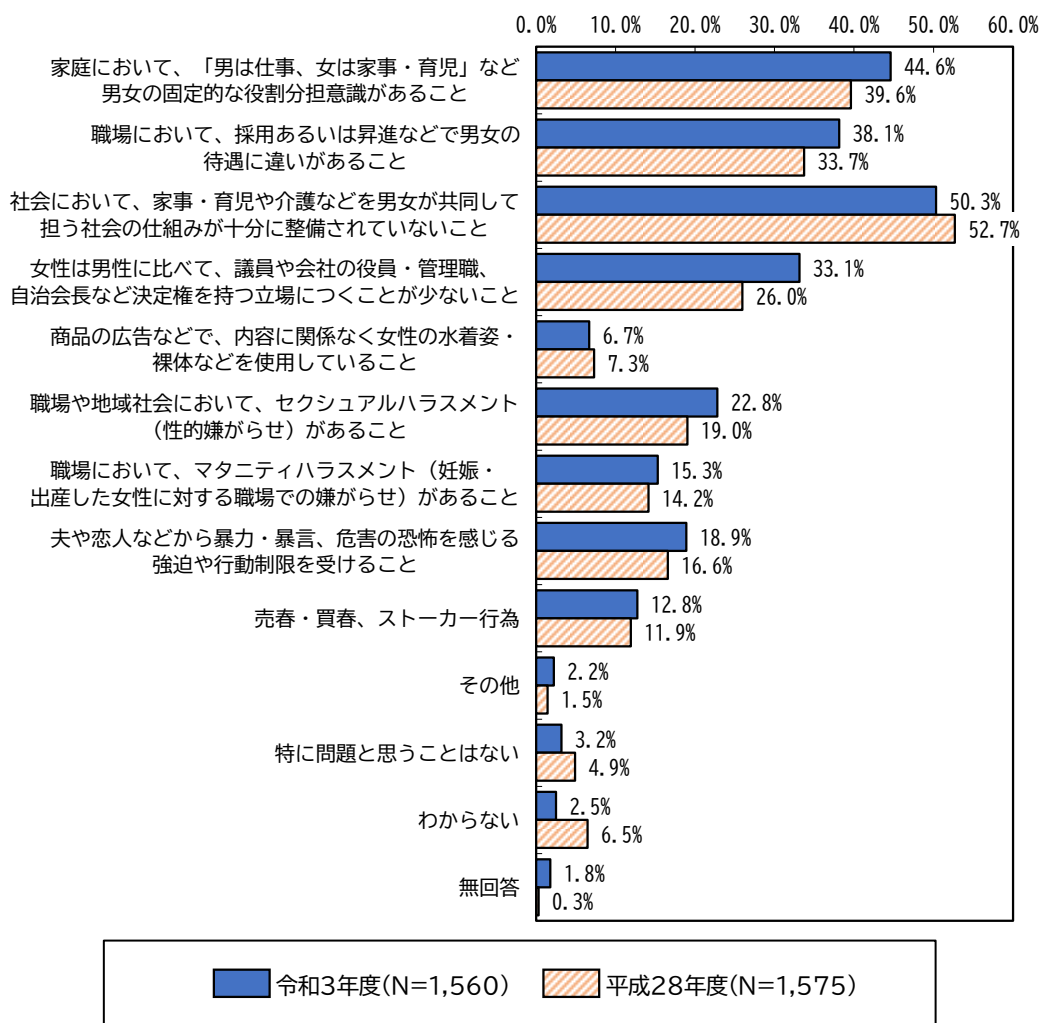


4. 人権の個別分野ごとの課題

(1) 女性の人権について

【問6】女性の人権について特にどのようなことが問題だと思うか（3つまで回答）をたずねたところ、「社会において、家事・育児や介護などを男女が共同して担う社会の仕組みが十分に整備されていないこと」と答えた人の割合が50.3%で最も高く、次いで「家庭において、「男は仕事、女は家事・育児」など男女の固定的な役割分担意識があること」（44.6%）、「職場において、採用あるいは昇進などで男女の待遇に違いがあること」（38.1%）の順となっている。前回の調査結果と比べると、上位3項目の順位は同じ結果となっている。

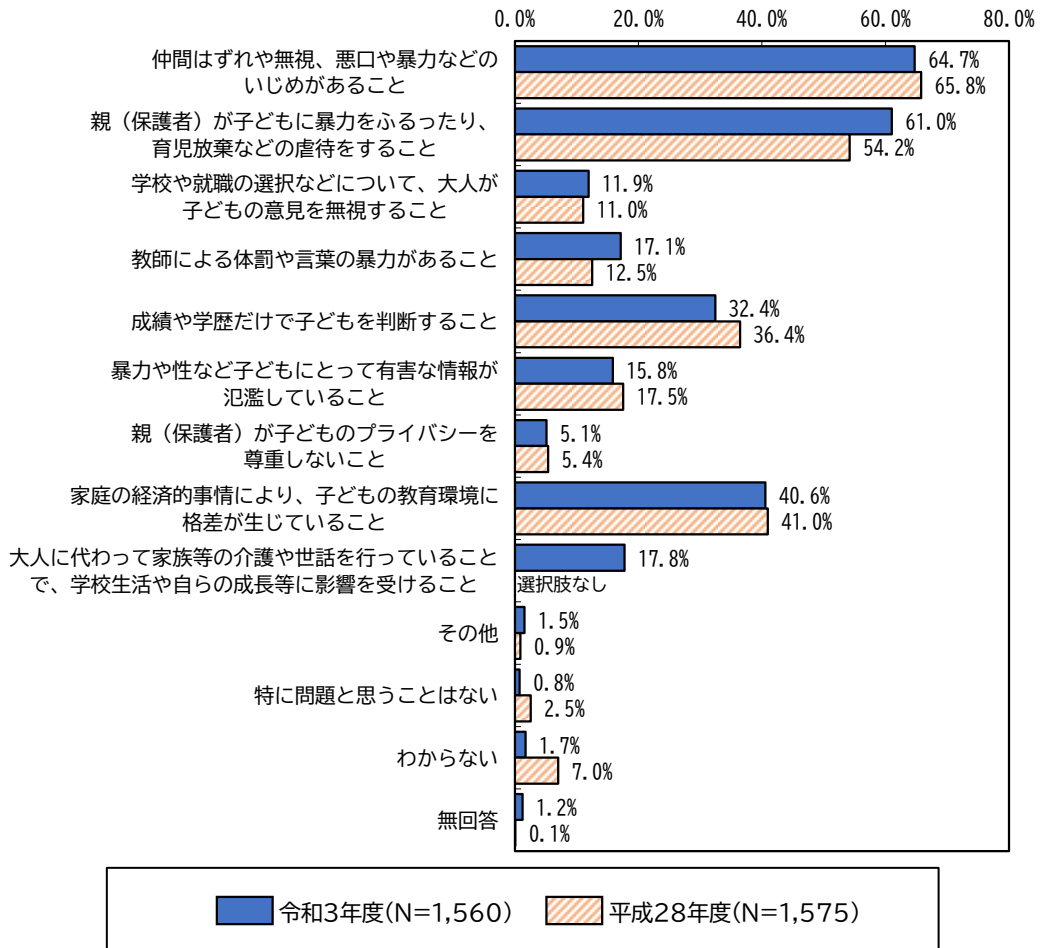
図 女性の人権について



(2) 子どもの人権について

【問7】子どもの人権について特にどのようなことが問題だと思うか（3つまで回答）をたずねたところ、「仲間はずれや無視、悪口や暴力などのいじめがあること」と答えた人の割合が64.7%で最も高く、次いで「親（保護者）が子どもに暴力をふるったり、育児放棄などの虐待をすること」が61.0%、「家庭の経済的事情により、子どもの教育環境に格差が生じていること」（40.6%）の順となっている。前回の調査結果と比べると、上位3項目の順位は同じ結果となっている。

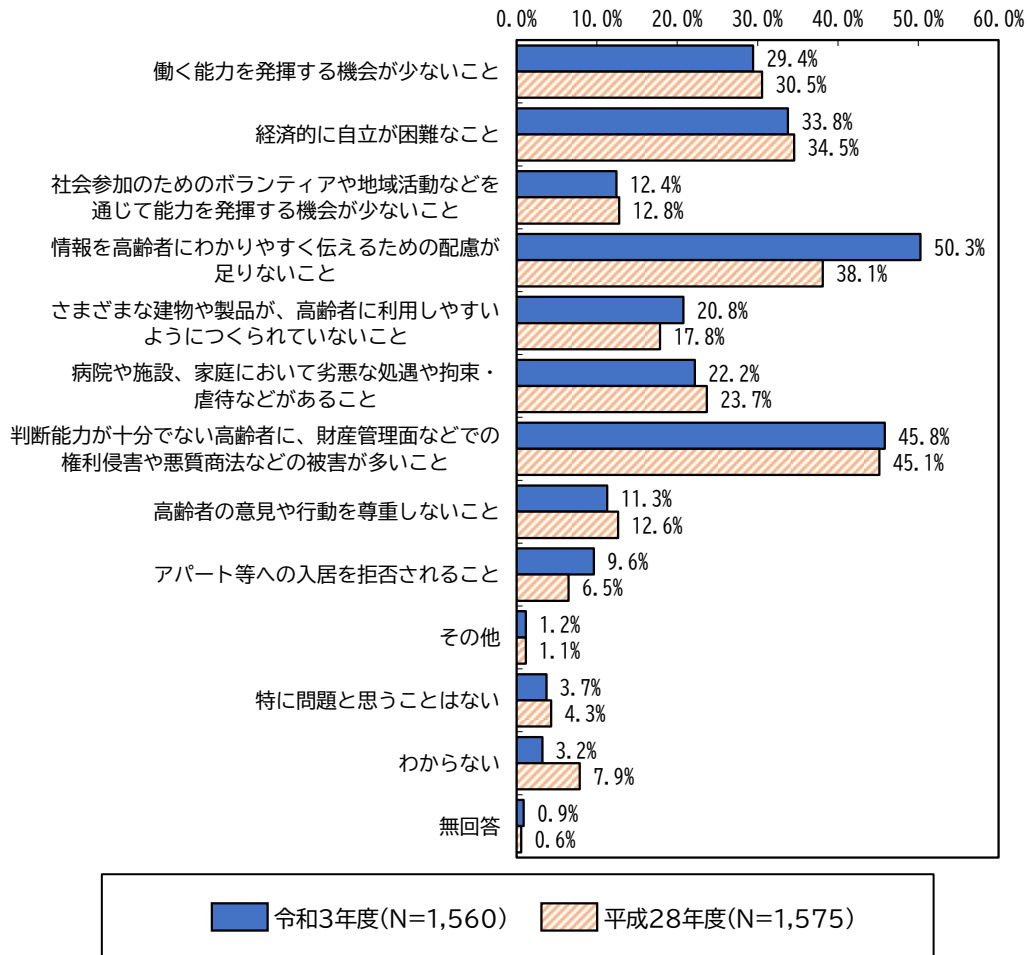
図 子どもの人権について



(3) 高齢者の人権について

【問8】高齢者の人権について特にどのようなことが問題だと思うか（3つまで回答）をたずねたところ、「情報を高齢者にわかりやすく伝えるための配慮が足りないこと」と答えた人の割合が50.3%で最も高く、次いで「判断能力が十分でない高齢者に、財産管理面などでの権利侵害や悪質商法などの被害が多いこと」（45.8%）、「経済的に自立が困難なこと」（33.8%）の順となっている。前回の調査結果と比べると、「情報を高齢者にわかりやすく伝えるための配慮が足りないこと」と答えた人の割合が高くなっている。

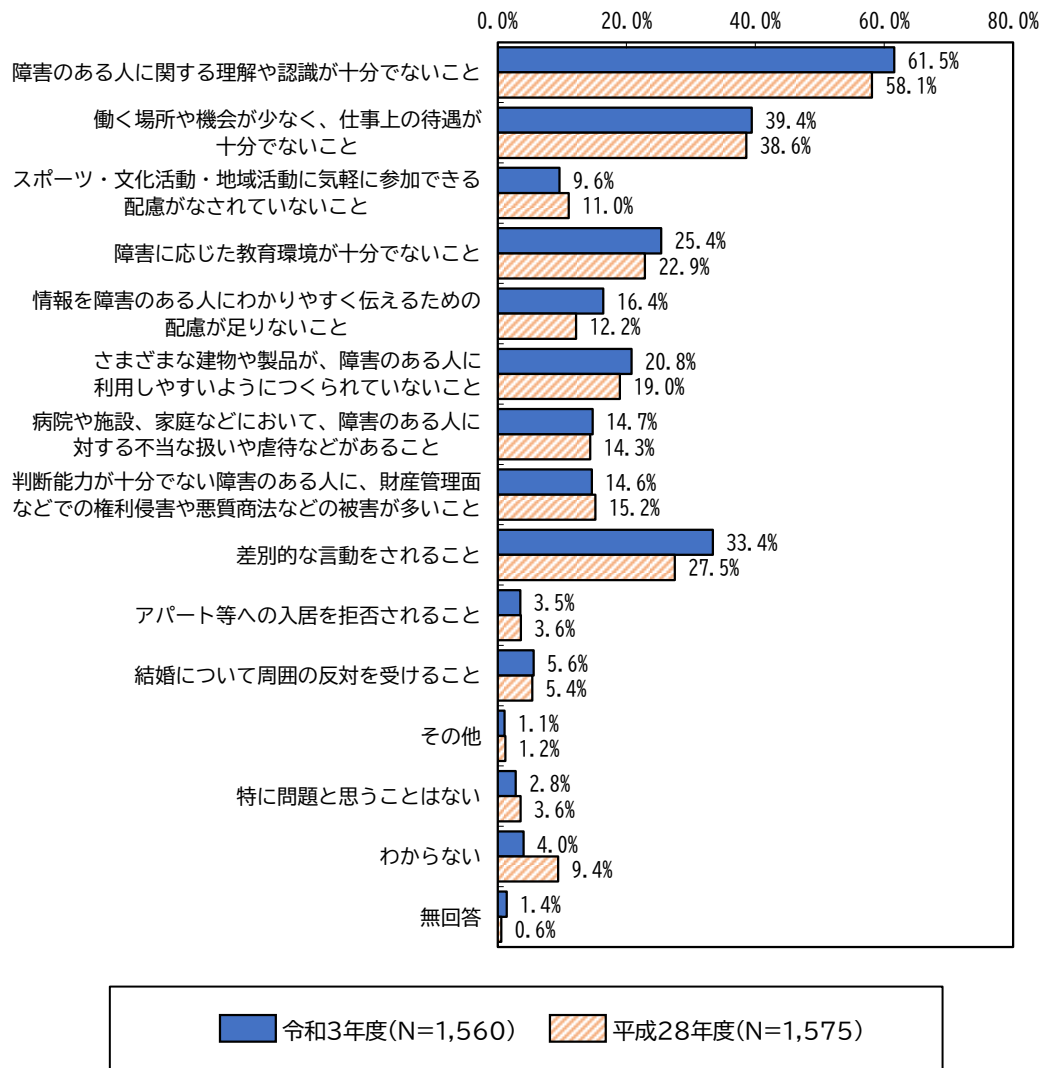
図 高齢者の人権について



(4) 障害者の人権について

【問9】障害者の人権について特にどのようなことが問題だと思うか（3つまで回答）をたずねたところ、「障害のある人に関する理解や認識が十分でないこと」と答えた人の割合が61.5%で最も高く、次いで「働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇が十分でないこと」（39.4%）、「差別的な言動をされること」（33.4%）の順となっている。前回の調査結果と比べると、上位3項目の順位は同じ結果となっている。

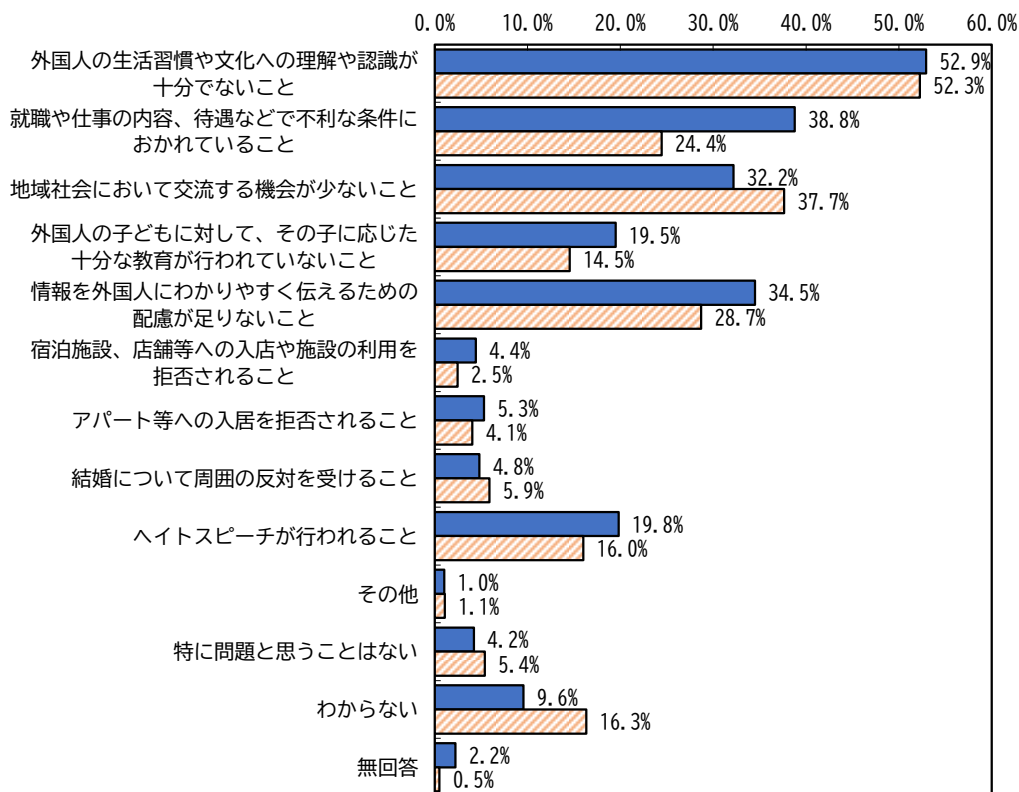
図 障害者の人権について



(5) 外国人の人権について

【問 10(1)】外国人の人権について特にどのようなことが問題だと思うか（3つまで回答）をたずねたところ、「外国人の生活習慣や文化への理解や認識が十分でないこと」と答えた人の割合が 52.9%で最も高く、次いで「就職や仕事の内容、待遇などで不利な条件におかれていること」（38.8%）、「情報を外国人にわかりやすく伝えるための配慮が足りないこと」（34.5%）の順となっている。前回の調査結果と比べると、「就職や仕事の内容、待遇などで不利な条件におかれていること」と答えた人の割合が高くなっている。

図 外国人の人権について

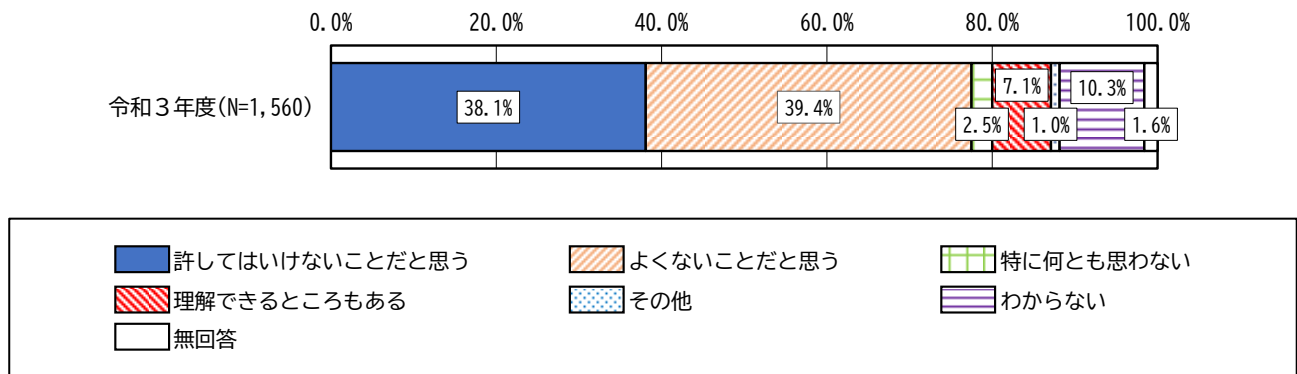


■ 令和3年度(N=1,560) ■ 平成28年度(N=1,575)

(6) ヘイトスピーチについて

【問 10(2)】ヘイトスピーチについてどのように思うかをたずねたところ、「よくないことだと思う」と答えた人の割合が 39.4%で最も高く、次いで「許してはいけないことだと思う」(38.1%)、「わからない」(10.3%)の順となっている。また、「理解できるところもある」と答えた人の割合は 7.1%となっている。

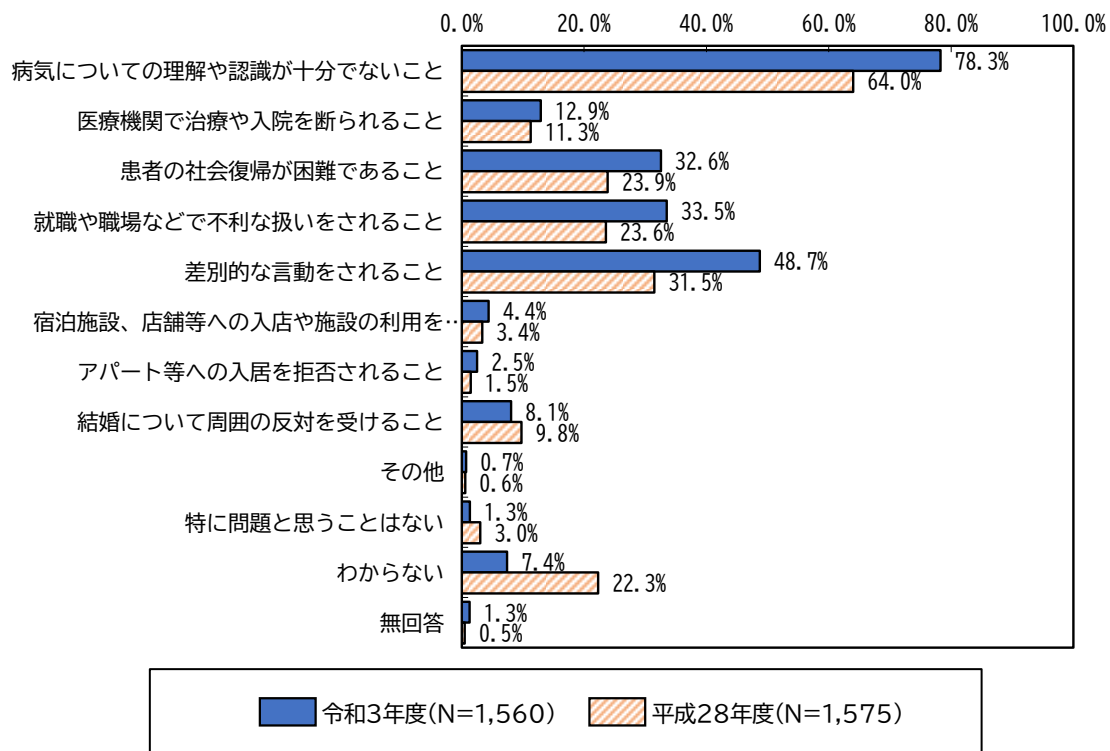
図 ヘイトスピーチについて



(7) エイズやハンセン病などの感染症患者とその家族等の人権について

【問 11】エイズやハンセン病などの感染症患者とその家族等の人権について特にどのようなことが問題だと思うか（3つまで回答）（※）をたずねたところ、「病気についての理解や認識が十分でないこと」と答えた人の割合が 78.3%で最も高く、次いで「差別的な言動をされること」(48.7%)、「就職や職場などで不利な扱いをされること」(33.5%)の順となっている。前回の調査結果と比べると、上位2項目は同じ結果となっている。

図 エイズやハンセン病などの感染症患者とその家族等の人権について

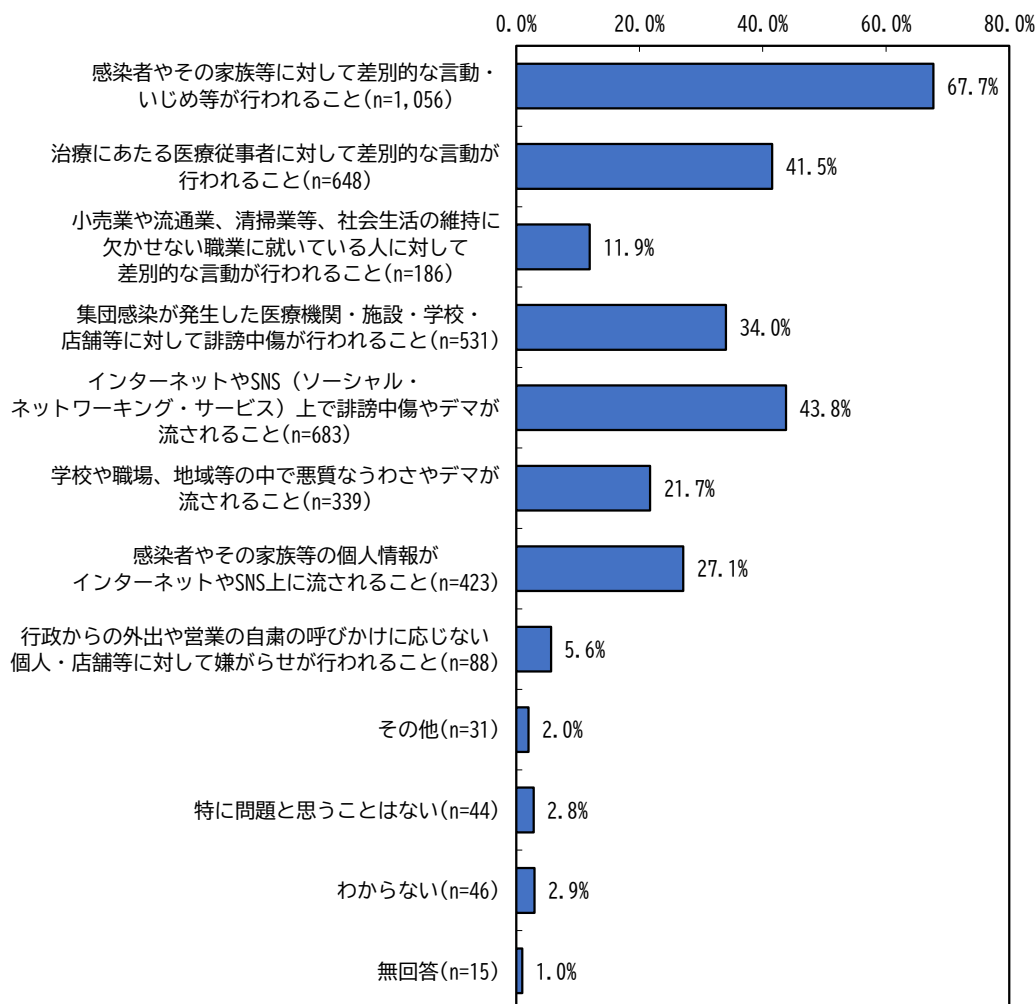


※平成 28 年度は質問文を「エイズ患者・HIV 感染者やその家族等に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思いますか」としていたが、同一の趣旨ではあるものの令和 3 年度は質問文を変更した。

(8) 新型コロナウイルス感染症に関する人権問題について

【問 12】新型コロナウイルス感染症に関する人権問題について特にどのようなことが問題だと思うか（3つまで回答）をたずねたところ、「感染者やその家族等に対して差別的な言動・いじめ等が行われること」と答えた人の割合が67.7%で最も高く、次いで「インターネットや SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)上で誹謗中傷やデマが流されること」（43.8%）、「治療にあたる医療従事者に対して差別的な言動が行われること」（41.5%）の順となっている。

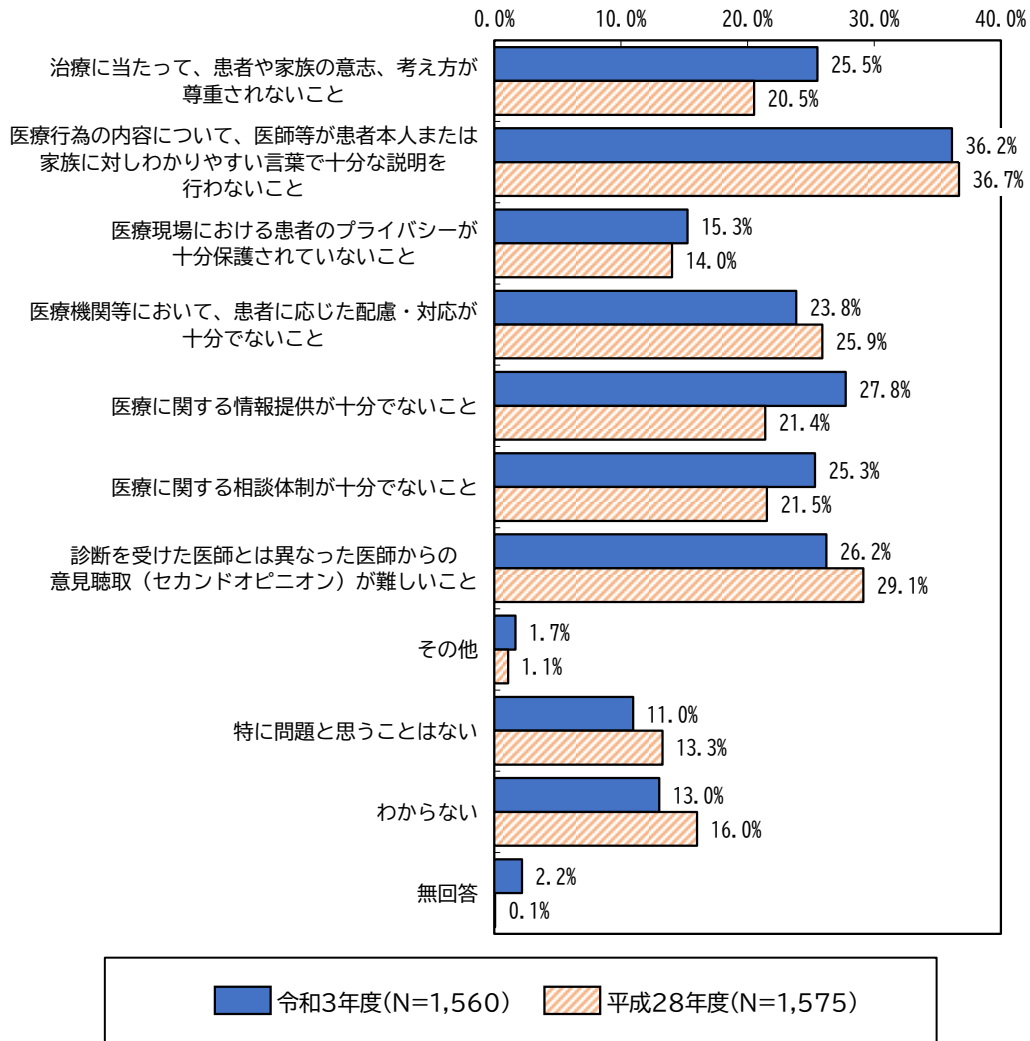
図 新型コロナウイルス感染症に関する人権問題について



(9) 医療の現場における患者の人権について

【問 13】医療の現場における患者の人権について特にどのようなことが問題だと思うか（3つまで回答）をたずねたところ、「医療行為の内容について、医師等が患者本人または家族に対しわかりやすい言葉で十分な説明を行わないこと」と答えた人の割合が36.2%で最も高く、次いで「医療に関する情報提供が十分でないこと」（27.8%）、「診断を受けた医師とは異なった医師からの意見聴取（セカンドオピニオン）が難しいこと」（26.2%）の順となっている。最上位の項目は前回の調査と同じ結果となっている。

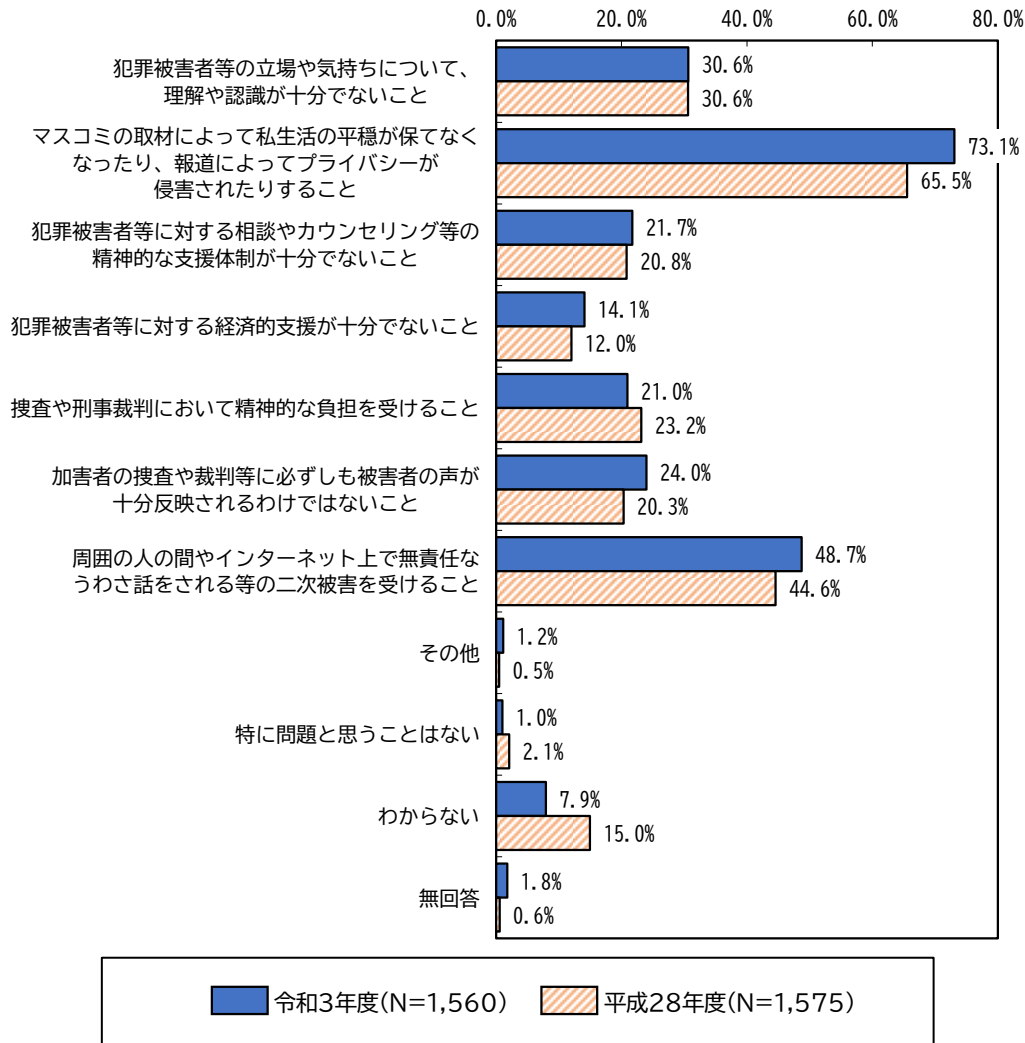
図 医療の現場における患者の人権について



(10) 犯罪被害者等の人権について

【問 14】犯罪被害者等の人権について特にどのようなことが問題だと思うか（3つまで回答）をたずねたところ、「マスコミの取材によって私生活の平穏が保てなくなったり、報道によってプライバシーが侵害されたりすること」と答えた人の割合が 73.1%で最も高く、次いで「周囲の人の間やインターネット上で無責任なうわさ話をされる等の二次被害を受けること」（48.7%）、「犯罪被害者等の立場や気持ちについて、理解や認識が十分でないこと」（30.6%）の順となっている。前回の調査結果と比べると、上位3項目の順位は同じ結果となっている。

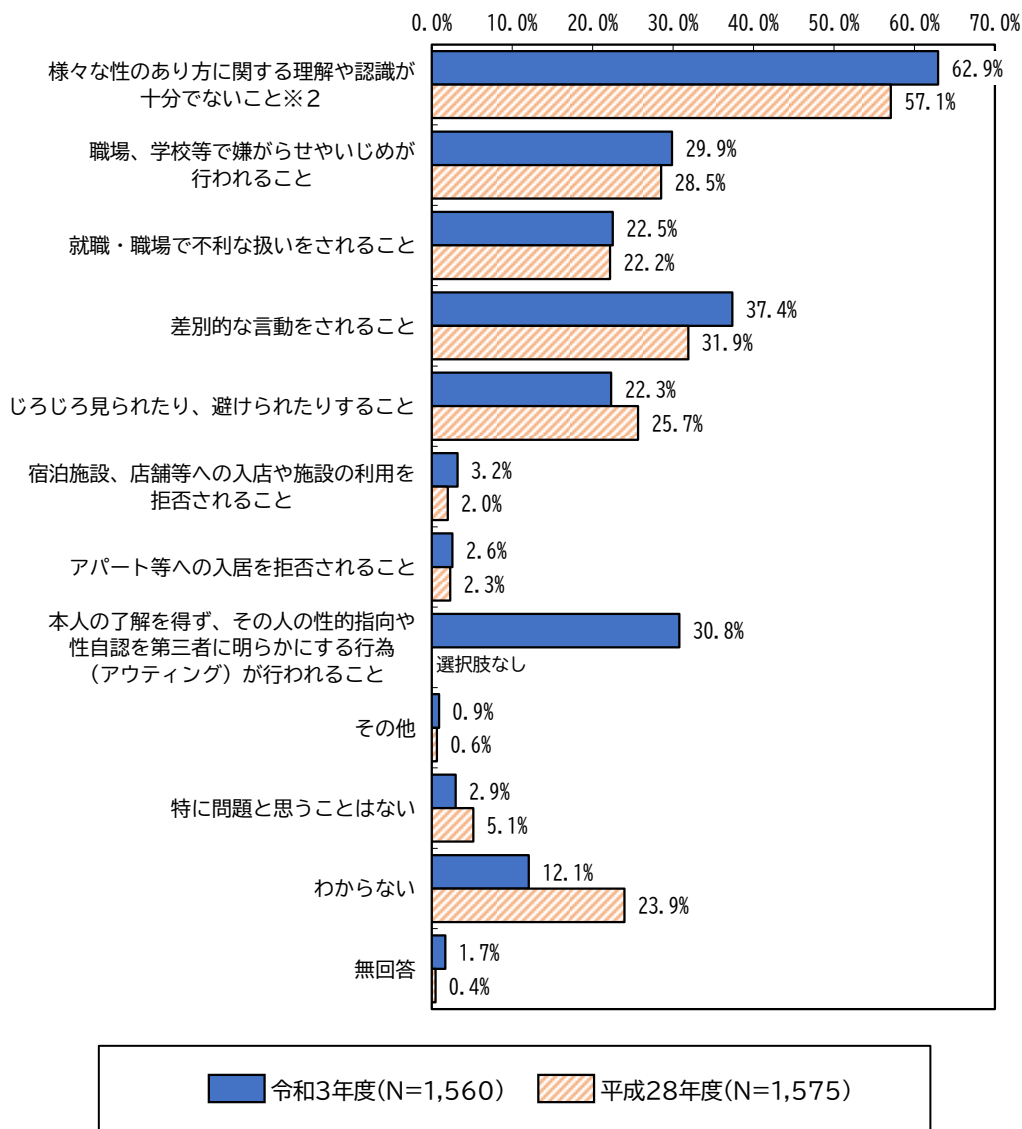
図 犯罪被害者等の人権について



(11) L G B T等の人権について

【問 15】LGBT 等の人権について特にどのようなことが問題だと思いか（3つまで回答）（※ 1）をたずねたところ、「様々な性のあり方に関する理解や認識が十分でないこと」と答えた人の割合が 62.9%で最も高く、次いで「差別的な言動をされること」（37.4%）、「本人の了解を得ず、その人の性的指向や性自認を第三者に明らかにする行為（アウティング）が行われること」（30.8%）の順となっている。前回の調査結果と比べると、上位 2 項目の順位は同じ結果となっている。

図 L G B T等の人権について



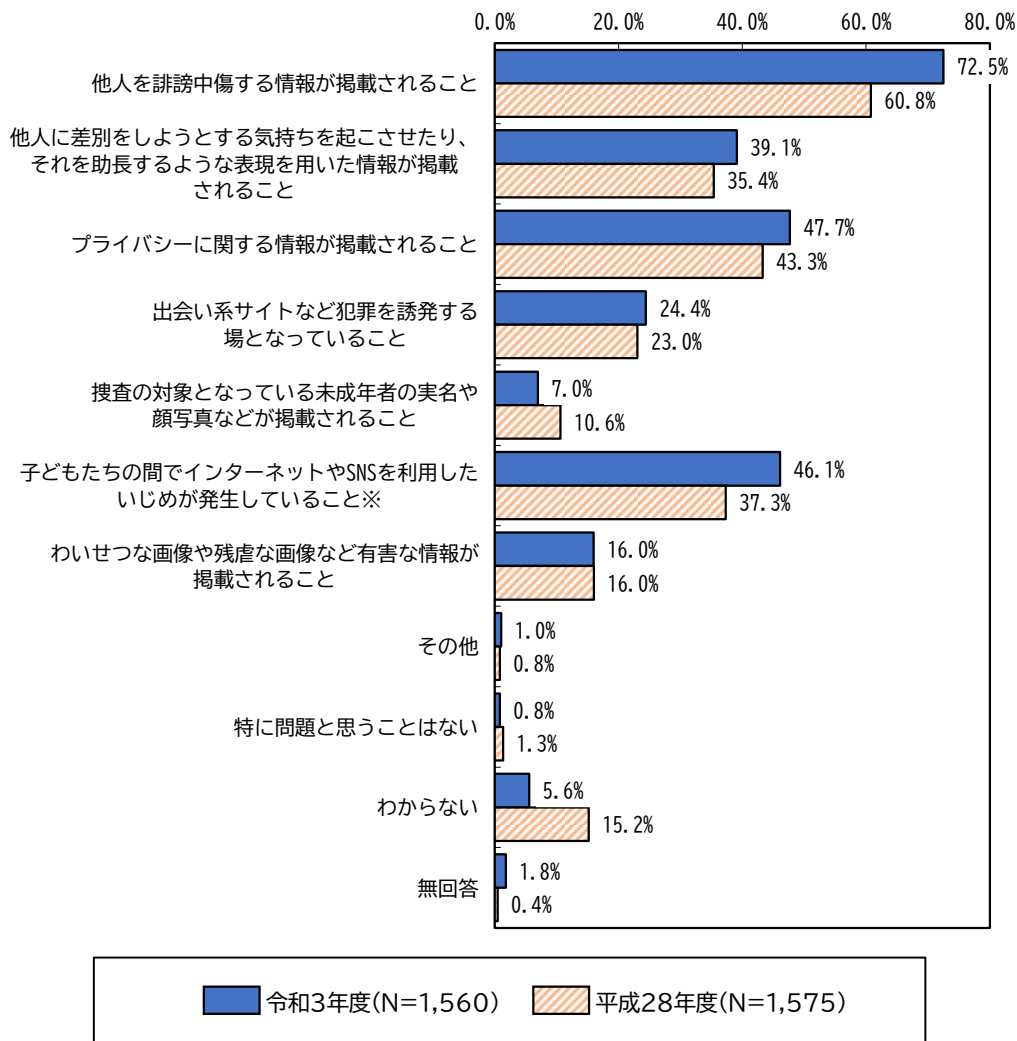
※ 1 平成 28 年度は質問文を「性同一性障害者・同性愛者に関する事柄で、人権上、特にどのようなことが問題だと思いますか」としていたが、同一の趣旨ではあるものの令和 3 年度は質問文を変更した。

※ 2 平成 28 年度は選択肢の文章を「性同一性障害者・同性愛者等に関する理解や認識が十分でないこと」としていたが、同一の趣旨ではあるものの令和 3 年度は「様々な性のあり方に関する理解や認識が十分でないこと」と変更した。

(12) インターネット上の人権侵害について

【問 16】インターネット上の人権侵害について特にどのようなことが問題だと思うか（3つまで回答）をたずねたところ、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」と答えた人の割合が 72.5%で最も高く、次いで「プライバシーに関する情報が掲載されること」（47.7%）、「子どもたちの間でインターネットや SNS を利用したいじめが発生していること」（46.1%）の順となっている。前回の調査結果と比べると、上位 3 項目の順位は同じ結果となっている。

図 インターネット上の人権侵害について

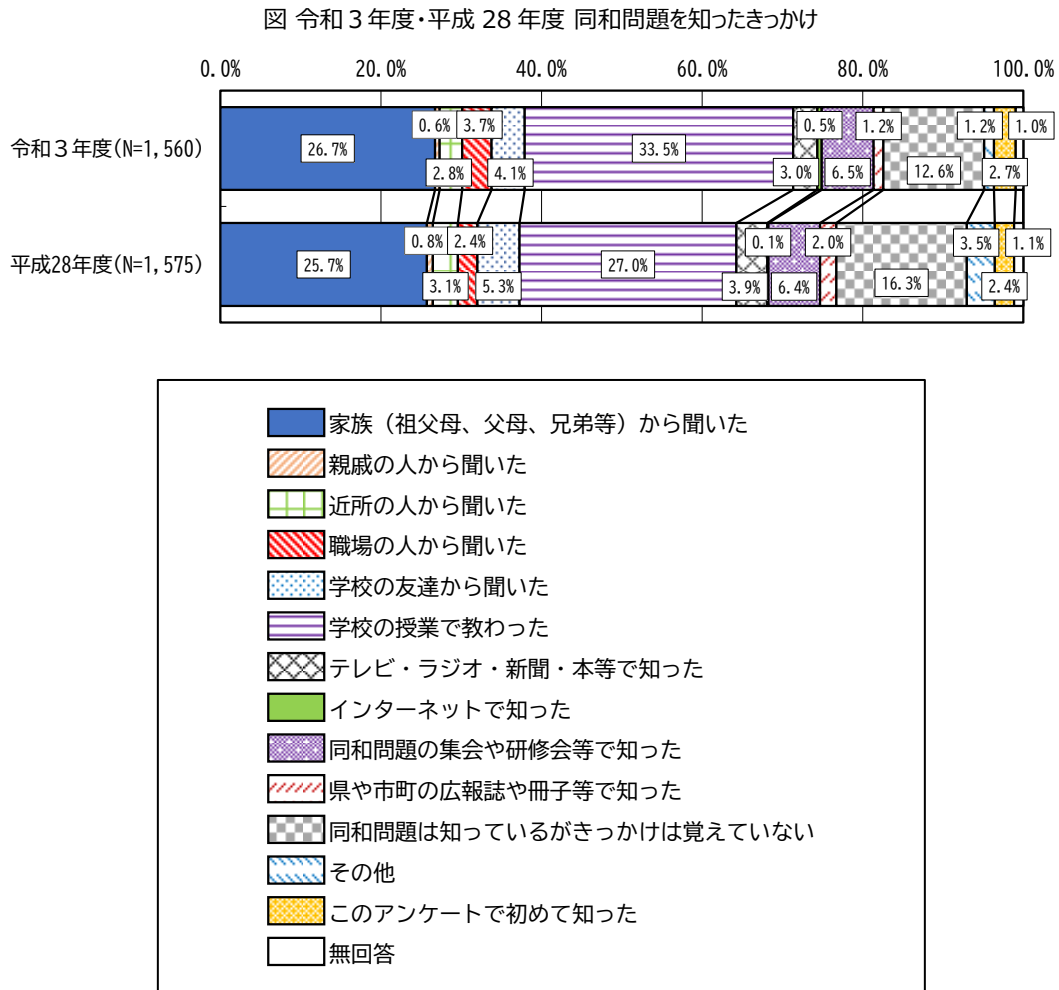


※平成 28 年度は選択肢の文章を「子どもたちの間でインターネットを利用したいじめが発生していること」としていたが、同一の趣旨ではあるものの令和 3 年度は「子どもたちの間でインターネットや SNS を利用したいじめが発生していること」と変更した。

5. 同和問題(部落差別)について

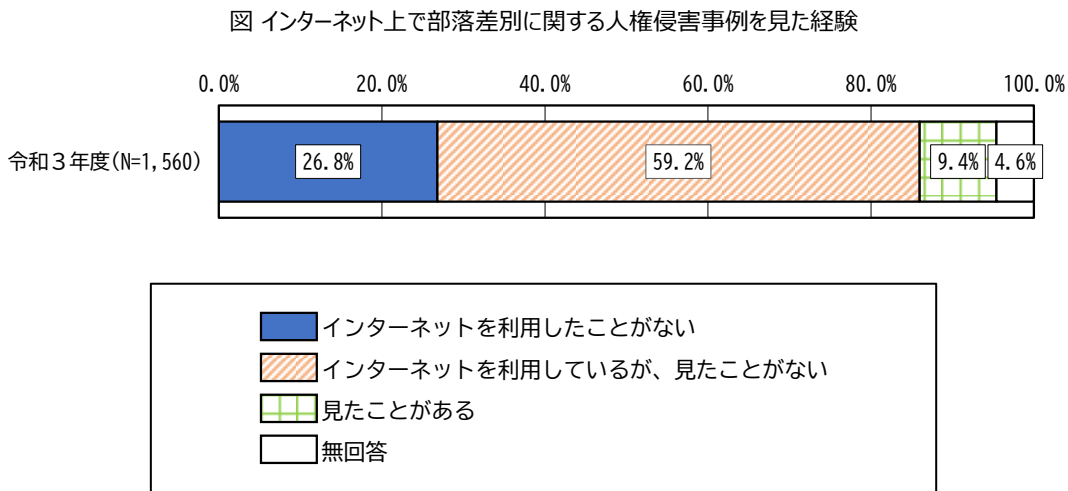
(1) 同和問題を知ったきっかけ

【問 17】同和問題を知ったきっかけについてたずねたところ、「学校の授業で教わった」と答えた人の割合が33.5%で最も高く、次いで「家族（祖父母、父母、兄弟等）から聞いた」（26.7%）、「同和問題は知っているがきっかけは覚えていない」（12.6%）の順となっている。前回の調査結果と比べると、上位3項目の順位は同じ結果となっている。



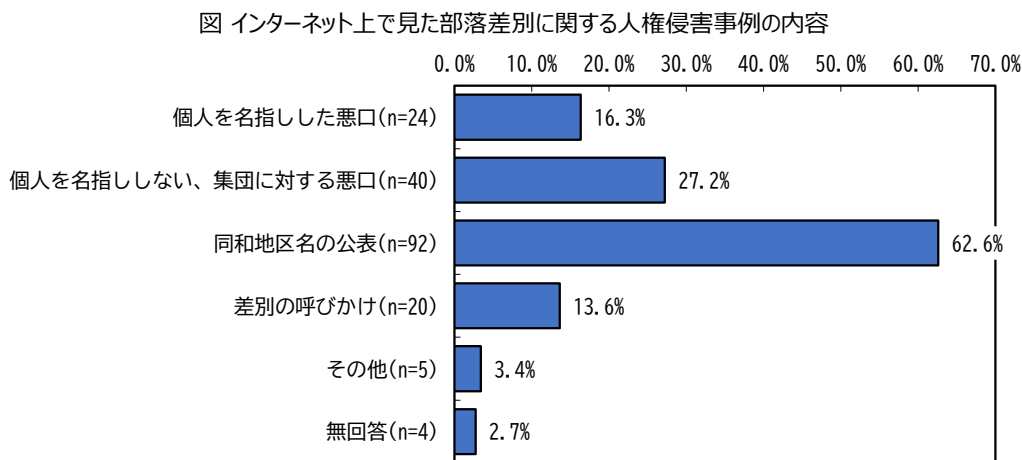
(2) インターネット上で部落差別に関する人権侵害事例を見た経験

【問 18(1)】インターネット上で部落差別に関する人権侵害事例を見た経験についてたずねたところ、「見たことがある」は 9.4%であり、「インターネットを利用しているが、見たことがない」と答えた人の割合は 59.2%となっている。



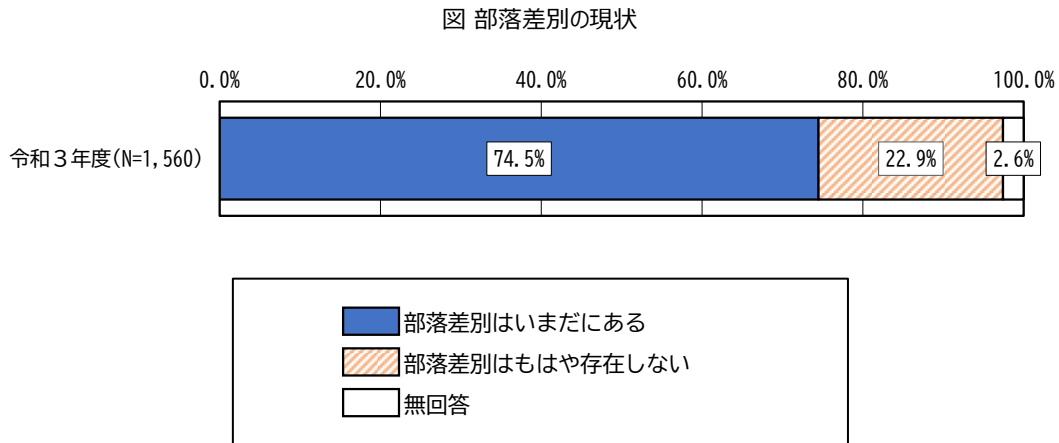
(3) インターネット上で見た部落差別に関する人権侵害事例の内容

【問 18(2)】インターネット上で見た部落差別に関する人権侵害事例の内容（複数回答）についてたずねたところ、「同和地区名の公表」と答えた人の割合が 62.6%と最も高く、次いで「個人を名指ししない、集団に対する悪口」（27.2%）、「個人を名指した悪口」（16.3%）の順となっている。



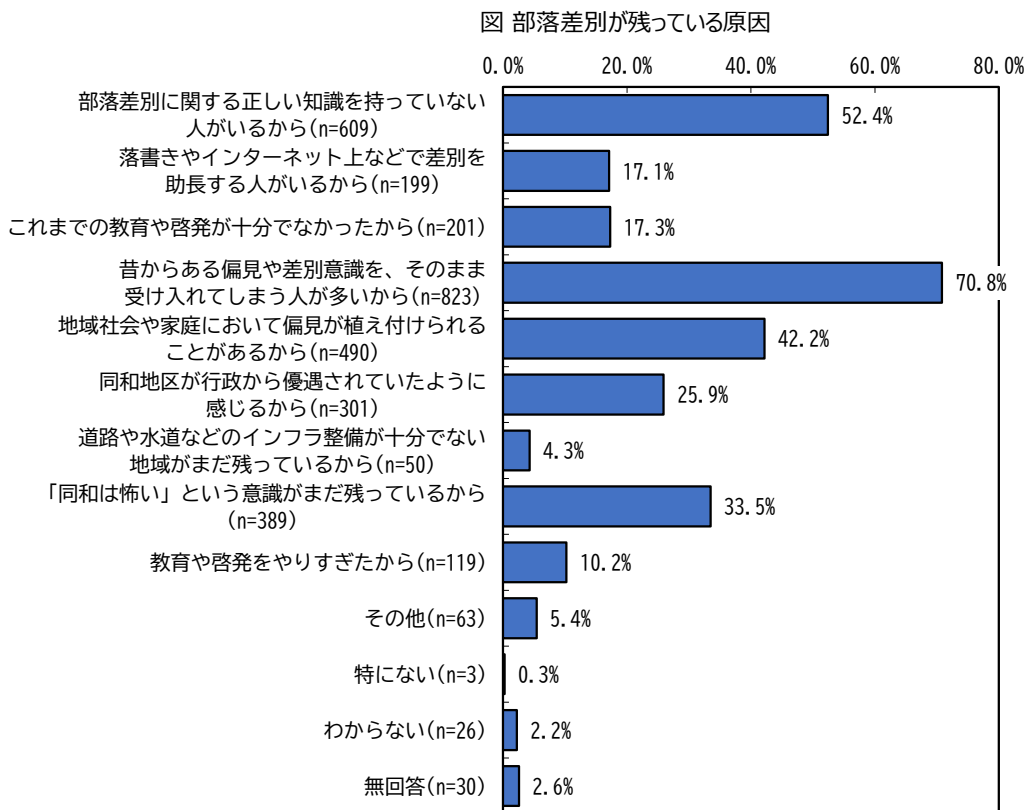
(4) 部落差別の現状

【問 19(1)】部落差別の現状についてたずねたところ、「部落差別はいまだにある」と答えた人の割合は 74.5%で、「部落差別はもはや存在しない」は 22.9%となっている。



(5) 部落差別が残っている原因

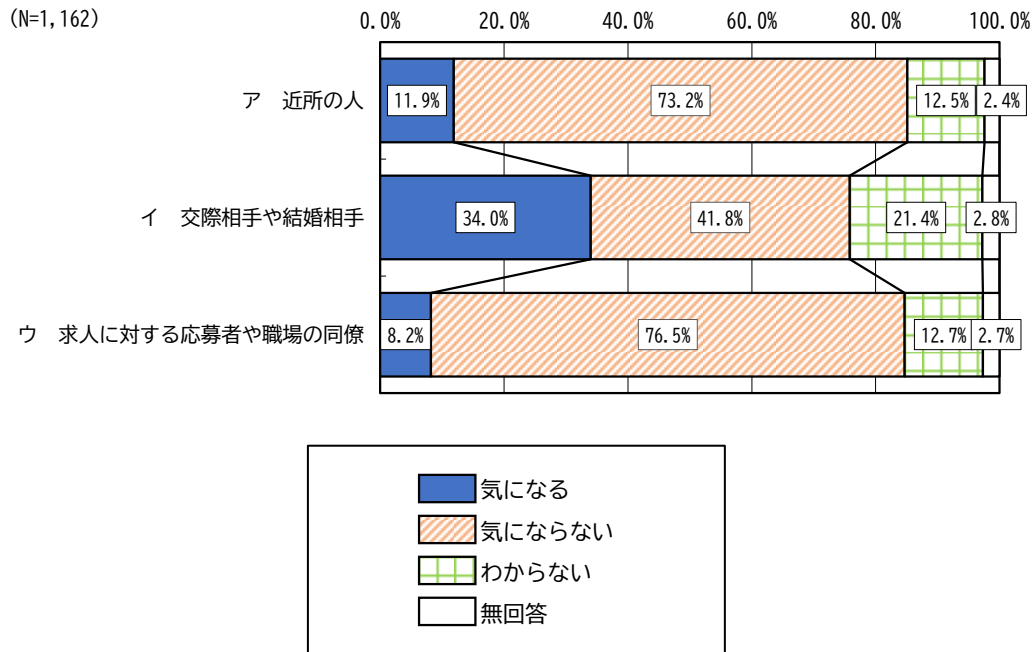
【問 19(2)】部落差別が残っている原因（複数回答）についてたずねたところ、「昔からある偏見や差別意識を、そのまま受け入れてしまう人が多いから」と答えた人の割合が 70.8%と最も高く、次いで「部落差別に関する正しい知識を持っていない人がいるから」（52.4%）、「地域社会や家庭において偏見が植え付けられることがあるから」（42.2%）の順となっている。



(6) 被差別部落の出身者への認識

【問 20】被差別部落の出身者への認識についてたずねたところ、「気にならない」がどの項目においても最も高くなっているが、「気になる」と答えた人の割合は、「交際相手や結婚相手」が 34.0%で最も高く、次いで「近所の人」(11.9%)、「求人に対する応募者や職場の同僚」(8.2%) の順となっている。

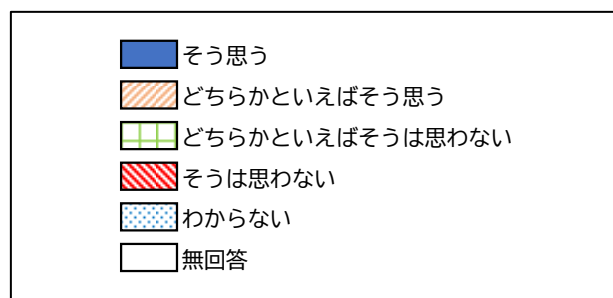
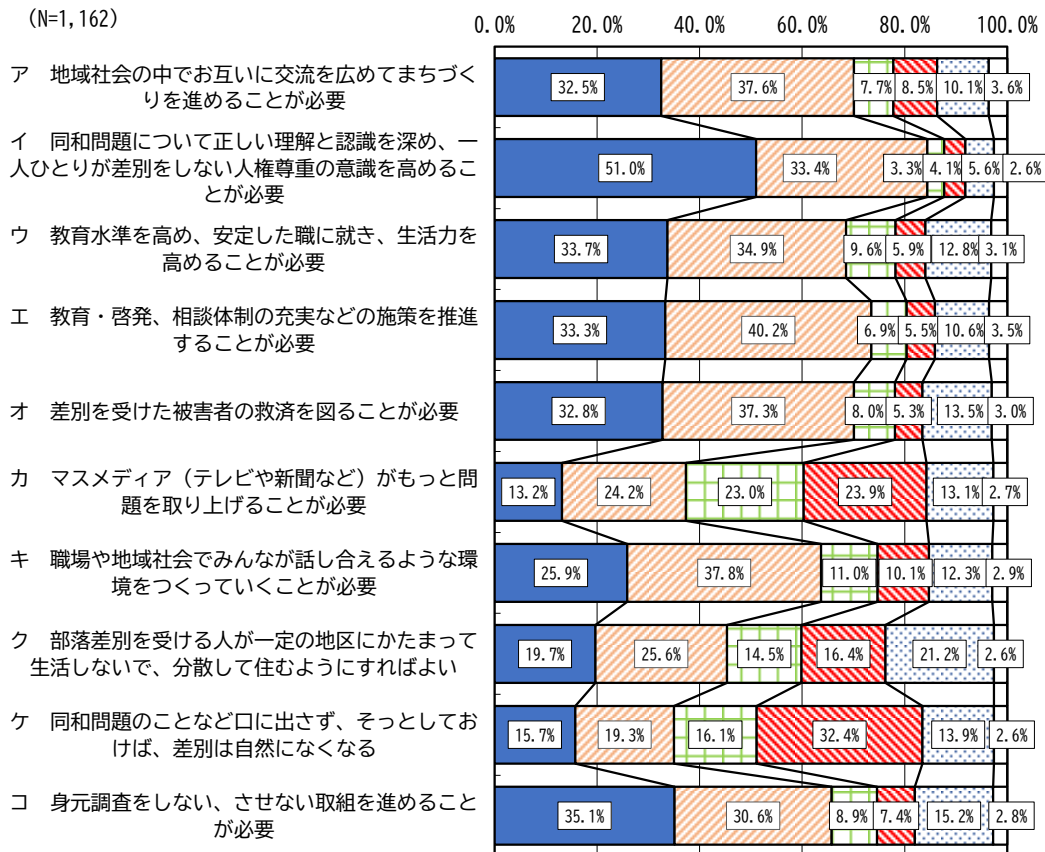
図 被差別部落の出身者への認識



(7) 同和問題の解決方法についての考え方

【問 21】同和問題の解決方法についての考え方をたずねたところ、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた「そう思う」と答えた人の割合は、「同和問題について正しい理解と認識を深め、一人ひとりが差別をしない人権尊重の意識を高めることが必要」が84.4%で最も高くなっている。次いで、「教育・啓発・相談体制の充実などの施策を推進することが必要」(73.5%)、「地域社会の中でお互いに交流を広めてまちづくりを進めることが必要」、「差別を受けた被害者の救済を図ることが必要」(いずれも70.1%)の順となっている。

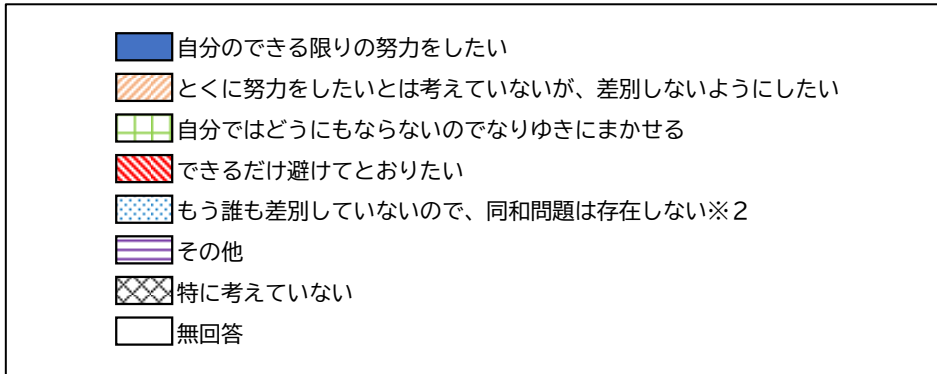
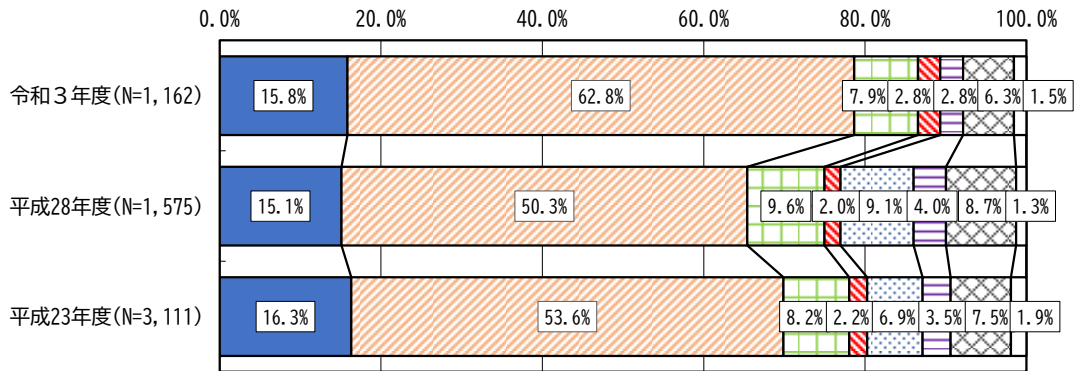
図 同和問題の解決方法についての考え方



(8) 同和問題解決に向けての思い

【問 22】同和問題解決に向けての思いをたずねたところ、「とくに努力をしたいとは考えていないが、差別しないようにしたい」と答えた人の割合が 62.8%で最も高く、次いで「自分のできる限りの努力をしたい」（15.8%）、「自分ではどうにもならないのでなりゆきにまかせる」（7.9%）の順となっている。前回、前々回の調査結果と比べると「とくに努力をしたいとは考えていないが、差別しないようにしたい」と答えた人の割合が増加している。

図 令和 3 年度・平成 28 年度・平成 23 年度 同和問題解決に向けての思い※ 1



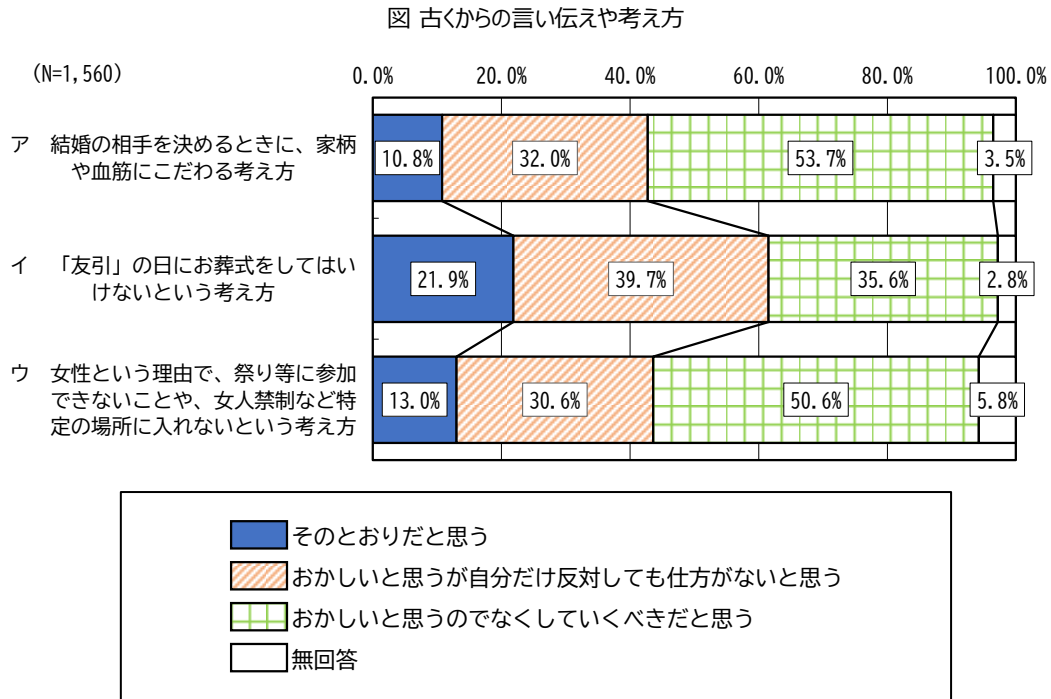
※ 1 平成 28 年度は全回答者がこの質問に回答しているが、令和 3 年度は問 19(1)で「部落差別はいまだにある」と回答した者のみが回答しているため比較にあたっては注意を要する。

※ 2 令和 3 年度は「もう誰も差別していないので、同和問題は存在しない」を選択肢から外している。

6. 人権の尊重や侵害についての考え方

(1) 古くからの言い伝えや考え方などについて

【問 23】古くからの言い伝えや考え方（3項目）を示したずねたところ、「おかしいと思うのでなくしていくべきだと思う」と答えた人の割合は、「結婚の相手を決めるときに、家柄や血筋にこだわる考え方」が 53.7%で最も高くなっており、次いで「女性という理由で、祭り等に参加できないことや、女人禁制など特定の場所に入れないという考え方」が 50.6%となっている。「友引」の日にお葬式をしてはいけないという考え方」は、「おかしいと思うが自分だけ反対しても仕方がないと思う」が 39.7%で他の事例に比べ高くなっている。



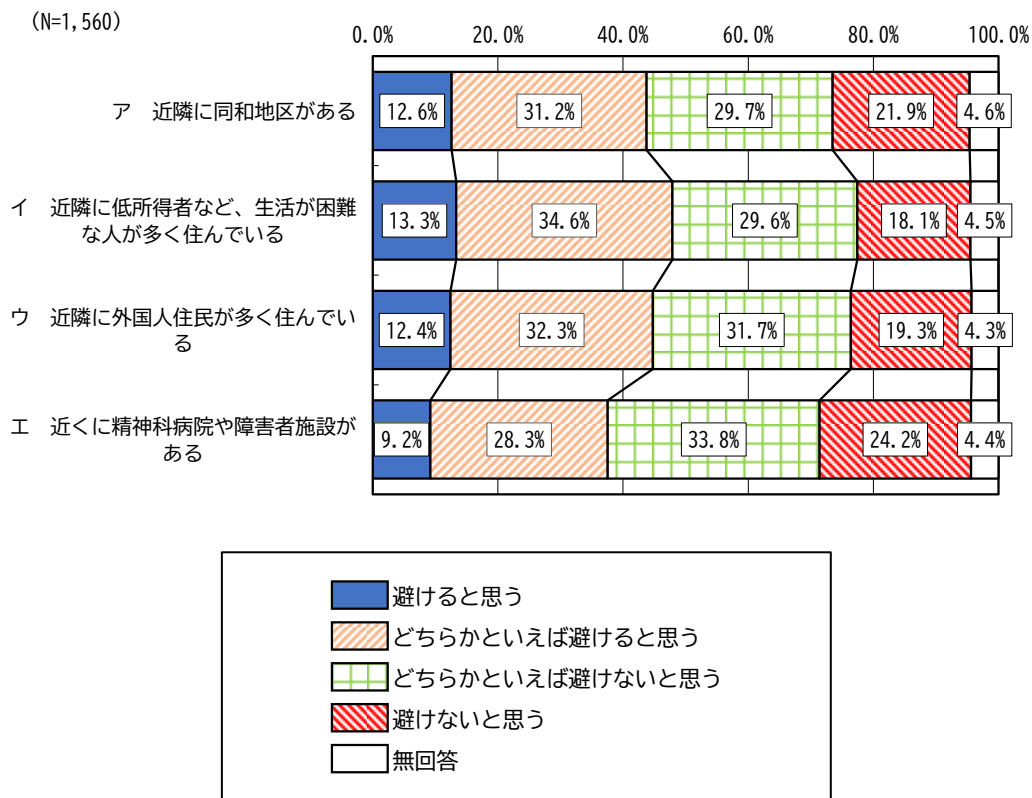
(2) 住宅を選ぶ際に忌避する条件

【問 24】住宅を選ぶ際に忌避する条件（4項目）を示してたずねたところ、「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」を合わせた“避ける”と、「避けないと思う」「どちらかといえば避けないと思う」を合わせた“避けない”と答えた人の割合を各事例で見ると、

- (ア)近隣に同和地区がある（避ける 43.8%：避けない 51.6%）
- (イ)近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる（避ける 47.9%：避けない 47.7%）
- (ウ)近隣に外国人住民が多く住んでいる（避ける 44.7%：避けない 51.0%）
- (エ)近くに精神科病院や障害者施設がある（避ける 37.5%：避けない 58.0%）

となっている。

図 住宅を選ぶ際に忌避する条件

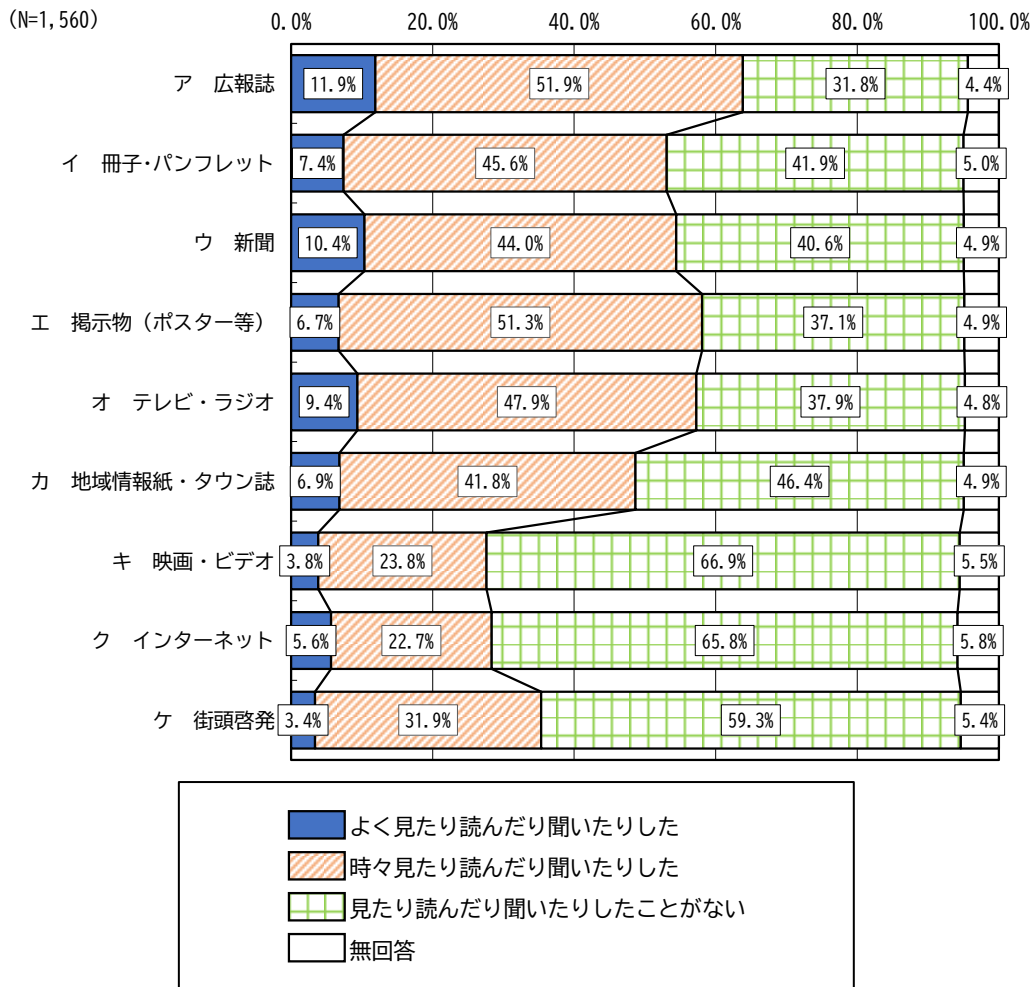


7. 人権啓発について

(1) 啓発活動への接触状況

【問 25】啓発活動への接触状況についてたずねたところ、「よく見たり読んだり聞いたりした」「時々見たり読んだり聞いたりした」「見たり読んだり聞いたりした」と答えた人の割合は、広報誌が 63.8%で最も高く、次いで掲示物（ポスター等）（58.0%）、テレビ・ラジオ（57.3%）の順となっている。

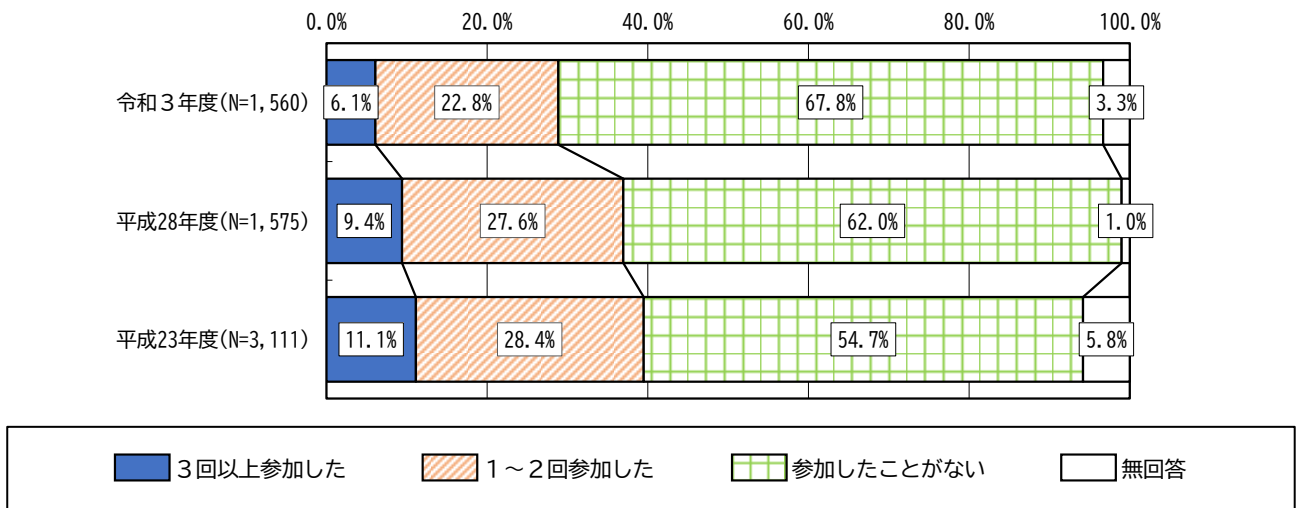
図 人権啓発活動への接触状況



(2) 講演会・研修会等への参加状況

【問 26】人権に関する講演会や研修会等への参加状況についてたずねたところ、「参加したことがない」が 67.8%で最も高く、次いで「1～2回参加した」(22.8%)、「3回以上参加した」(6.1%)の順となっている。前回、前々回の調査結果と比較すると、「参加したことがない」と答えた人の割合が高くなっている。

図 令和3年度・平成28年度・平成23年度 講演会・研修会等への参加状況

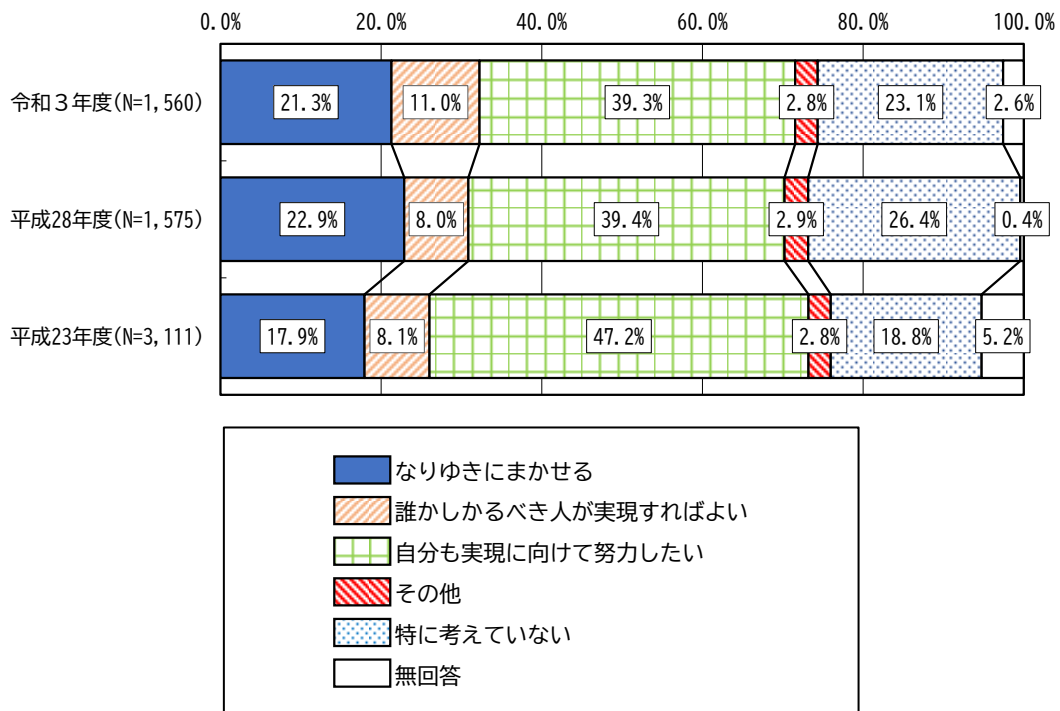


8. 人権が尊重される社会の実現に向けての考え方

(1) 人権が尊重される社会の実現に向けての考え方

【問 27(1)】人権が尊重される社会の実現に向けての考え方についてたずねたところ、「自分も実現に向けて努力したい」と答えた人の割合が 39.3%で最も高く、次いで「特に考えていない」(23.1%)、「なりゆきにまかせる」(21.3%)の順となっている。前回の調査結果と比較すると、どの項目も大きな変化は見られない。

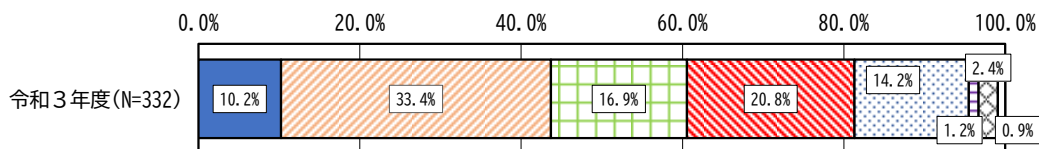
図 令和3年度・平成28年度・平成23年度 人権が尊重される社会の実現に向けての考え方



(2) 人権が尊重される社会の実現に向けての考え方の理由

【問 27(2)】(1)で「なりゆきにまかせる」と答えた人に、理由についてたずねたところ、「「人権が尊重される社会」がどのようなものなのかが想像できず、自分が何をすればよいかかわからないため」と答えた人の割合が 33.4%で最も高く、次いで「自分一人が努力してもどうにもならないと感じるため」(20.8%)、「仕事や学業、日常生活等で忙しく、他のことを考えている余裕がないため」(16.9%)の順となっている。なお、「既に「人権が尊重される社会」が実現しており、自分が努力する必要性を感じないため」と答えた人の割合は 10.2%であり、「「人権が尊重される社会」に特に関心がないため」と答えた人の割合は 1.2%となっている。

図 人権が尊重される社会の実現に向けての考え方の理由



- 既に「人権が尊重される社会」が実現しており、自分が努力する必要性を感じないため
- 「人権が尊重される社会」がどのようなものなのかが想像できず、自分が何をすればよいかかわからないため
- 仕事や学業、日常生活等で忙しく、他のことを考えている余裕がないため
- 自分一人が努力してもどうにもならないと感じるため
- 個人ではなく、行政が取り組むべき課題であると思うため
- 「人権が尊重される社会」に特に関心がないため
- その他
- 無回答

令和3年度 人権に関する県民意識調査報告書（概要版）

令和4年（2022年）3月

発行 滋賀県総合企画部

〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1番1号

TEL (077)528-3533 / FAX (077)528-4852